

2005年7月の地震活動の評価

1. 主な地震活動

7月23日に千葉県北西部の深さ約75kmでマグニチュード(M)6.0の地震が発生した。この地震により、最大震度5強を観測し、負傷者が出るなどの被害を生じた。

2. 各地方別の地震活動

(1) 北海道地方

目立った活動はなかった。

(2) 東北地方

- 7月2日に三陸沖でM5.5の地震が発生した。発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震と考えられる。

(3) 関東・中部地方

- 7月28日に茨城県南部の深さ約50kmでM5.0の地震が発生した。発震機構は北北西－南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。
- 7月22日に千葉県北東部の深さ約50kmでM4.4の地震が発生した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと太平洋プレートの境界で発生した地震と考えられる。
- 7月23日に千葉県北西部の深さ約75kmでM6.0の地震が発生した。この地震により東京都で最大震度5強を観測した。また、8月7日には、ほぼ同じ場所でM4.7の最大余震が発生した。発震機構はいずれも東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートの沈み込みに伴う地震である。地震活動は本震－余震型で推移し、余震活動は減衰しつつある。
周辺のGPS観測結果には、この地震の前後で、特に変化は認められない。
今回の震央付近には、深さ70km前後で太平洋プレートの沈み込みに関係した定常的な地震活動が見られる。1923年8月以降、M6.0以上の地震が今回を含めて6回発生しており、最大は1956年9月30日のM6.3の地震である。
- 7月31日に山梨県東部の深さ約20kmでM4.4の地震が発生した。
- 7月10日に八丈島東方沖（八丈島の東北東約100km）でM5.8の地震が発生した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートの沈み込みに伴う地震である。
- 7月9日に新潟県中越地方の深さ約10kmでM4.3の地震が発生した。この地震は、平成16年(2004年)新潟県中越地震の余震域内で発生した。
- 東海地方のGPS観測結果に2001年から認められた長期的な変化は、現在も継続しているように見える。

(4) 近畿・中国・四国地方

目立った活動はなかった。

(5) 九州・沖縄地方

目立った活動はなかった。

補足

- 8月8日に茨城県沖の深さ約45kmでM5.6の地震が発生した。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートの沈み込みに伴う地震である。

2005年7月の地震活動の評価についての補足説明

平成17年8月10日
地震調査委員会

1 主な地震活動について

2005年7月の日本およびその周辺域におけるマグニチュード(M)別の地震の発生状況は以下のとおり。

M4.0以上およびM5.0以上の地震の発生は、それぞれ115回(6月は87回)および16回(6月は10回)であった。また、M6.0以上の地震は1回で、2005年は7月までに7回発生している。なお、上記の月回数のうち、八丈島東方沖(八丈島の東方約250km)に発生したものは、M4.0以上が46回、M5.0以上が6回であった。

(参考) 1971-2000年の30年間の標準的な回数:

M4.0以上の月回数46回、M5.0以上の月回数8回、M6.0以上の月回数1.3回、年回数約16回

2004年7月以降2005年6月末までの間、主な地震活動として評価文に取り上げたものは次のものがあつた。

- 岩手県沖 2004年8月10日 M5.8 (深さ約50km)
- 紀伊半島南東沖(東海道沖)
2004年9月5日 M7.4
- 茨城県南部 2004年10月6日 M5.7 (深さ約65km)
- 与那国島近海 2004年10月15日 M6.6
- 新潟県中越地方(平成16年(2004年)新潟県中越地震)
2004年10月23日 M6.8 (深さ約10km)
- 釧路沖 2004年11月29日 M7.1 (深さ約50km)
- 留萌支庁南部 2004年12月14日 M6.1 (深さ約10km)
- 房総半島南東沖(プレートの三重会合点付近)
2005年1月19日 M6.8
- 茨城県南部 2005年2月16日 M5.4 (深さ約45km)
- 福岡県西方沖 2005年3月20日 M7.0 (深さ約10km)
- 千葉県北東部 2005年4月11日 M6.1 (深さ約50km)
- 熊本県天草芦北地方
2005年6月3日 M4.8 (深さ約10km)
- 新潟県中越地方 2005年6月20日 M5.0 (深さ約15km)

2 各地方別の地震活動

(1) 北海道地方

北海道地方では特に補足する事項はない。

(2) 東北地方

「7月2日に三陸沖でM5.5の地震が発生した。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震と考えられる。」:

周辺の地震活動は、消長を繰り返しながら13日頃まで続いたが、それ以降の活動は低下し、7月下旬には収まった。

(3) 関東・中部地方

「東海地方のGPS観測結果に2001年から認められた長期的な変化は、現在も継続しているように見える。」:

GPS観測結果によれば、東海地方から中部地方にかけての太平洋側は、フィリピン海プレートの北西方向への沈み込みなどにより、西北西にほぼ一定速度で移動していたが、2001年4月頃から、静岡県西部を中心とする地域の移動について、変化している傾向が見られた。この長期的な変化の傾向には、2004年9月5日の紀伊半島南東沖の地震以降、一時的にそれまでとは異なった変化が見られていたが、最近では地震発生以前の状況に戻っている。

なお、7月20~23日には、愛知県東部と静岡県西部の一部の歪計および傾斜計に若干の地殻変動が検出された。これは、愛知県東部での短期的なゆっくりとした滑りによるものと考えられる。また、これとほぼ同時に、愛知県東部で比較的活発な低周波地震(微動)が観測された。こ

のような歪計および傾斜計のデータの変化と、ほぼ同時期に観測された低周波地震（微動）については、2004年にも複数回発生している。

（なお、これは、7月25日に開催された地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会における見解（参考参照）と同様である。）

（参考）最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動（平成17年7月25日気象庁地震火山部）

「現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖直下で通常より活動レベルの低い状態が続いていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

地殻変動については、昨年9月5日の東海道沖（紀伊半島南東沖）のM7.4の地震以降、この地震による余効変動と見られる動きが観測されていましたが、最近はこの地震以前の状態に戻り、プレート境界のゆっくり滑りに起因すると思われる長期的な地殻変動が継続している状況が見られます。

なお、7月20日から23日にかけて、一部の歪計および傾斜計の記録に若干の変化が見られました。この間、愛知県東部において低周波地震が発生しています。」

関東・中部地方では、他に次の地震活動があった。

－7月24日に千葉県南部の深さ約65kmでM4.5の地震が発生した。

－八丈島東方沖（八丈島の東方約250km）では、26日から地震活動が活発化し、M5.0以上の地震が6回発生した（最大は27日のM5.5）。8月に入ってから、M5.0以上の地震は発生しておらず、地震活動は収まりつつある。

（4）近畿・中国・四国地方

近畿・中国・四国地方では特に補足する事項はない。

（5）九州・沖縄地方

－3月20日に発生した福岡県西方沖の地震（M7.0）の余震活動は、引き続き減衰傾向である。

参考1 「地震活動の評価」において掲載する地震活動の目安

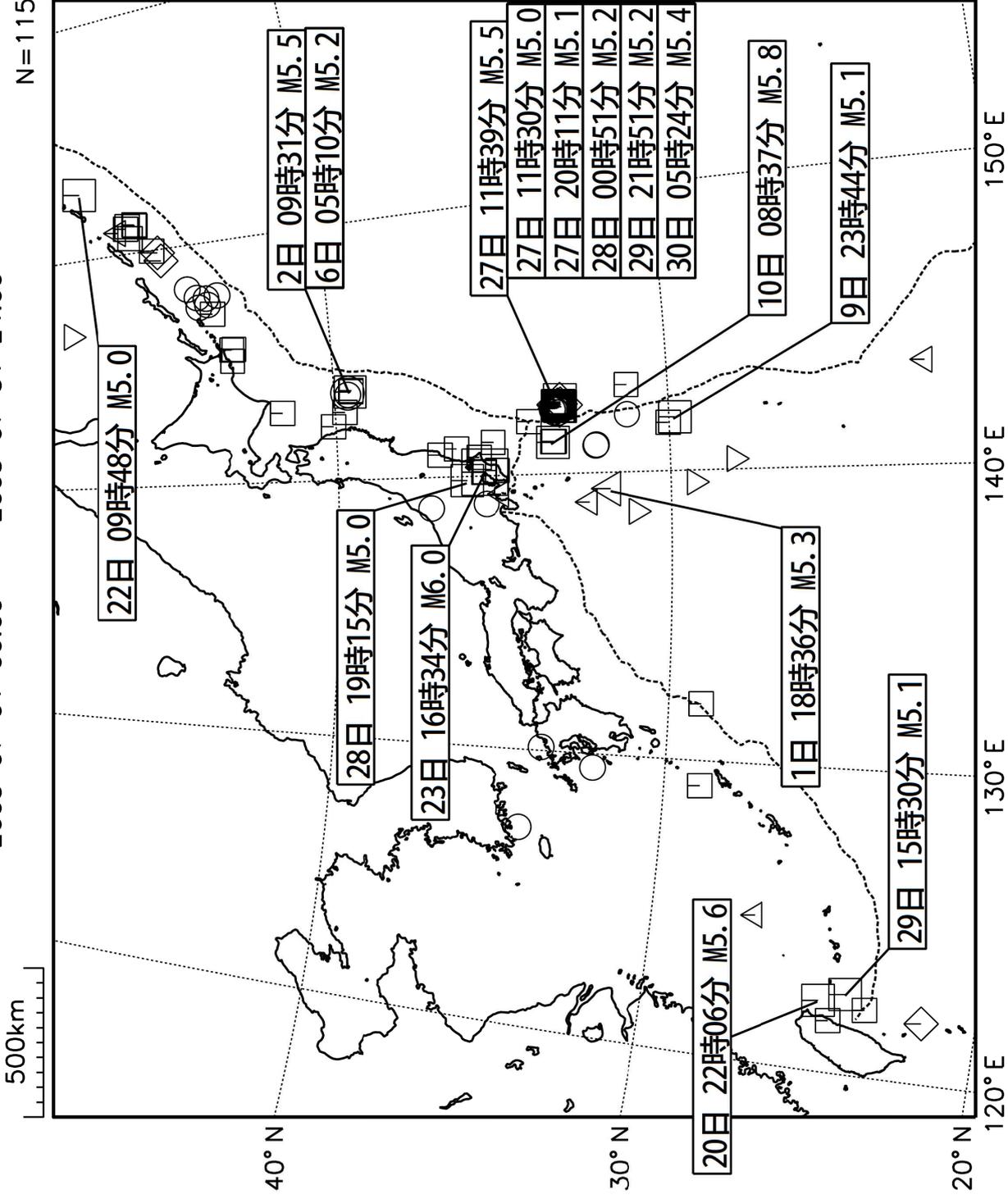
M6.0以上のもの。または、M4.0以上（海域ではM5.0以上）の地震で、かつ、最大震度が3以上のもの。

参考2 「地震活動の評価についての補足説明」の記述の目安

- 1 「地震活動の評価」に記述された地震活動に係わる参考事項。
- 2 「主な地震活動」として記述された地震活動（一年程度以内）に関連する活動。
- 3 評価作業をしたものの、活動が顕著でなく、かつ、通常の活動の範囲内であることから、「地震活動の評価」に記述しなかった活動の状況。

2005年7月の全国の地震活動（マグニチュード4.0以上）

2005 07 01 00:00 -- 2005 07 31 24:00



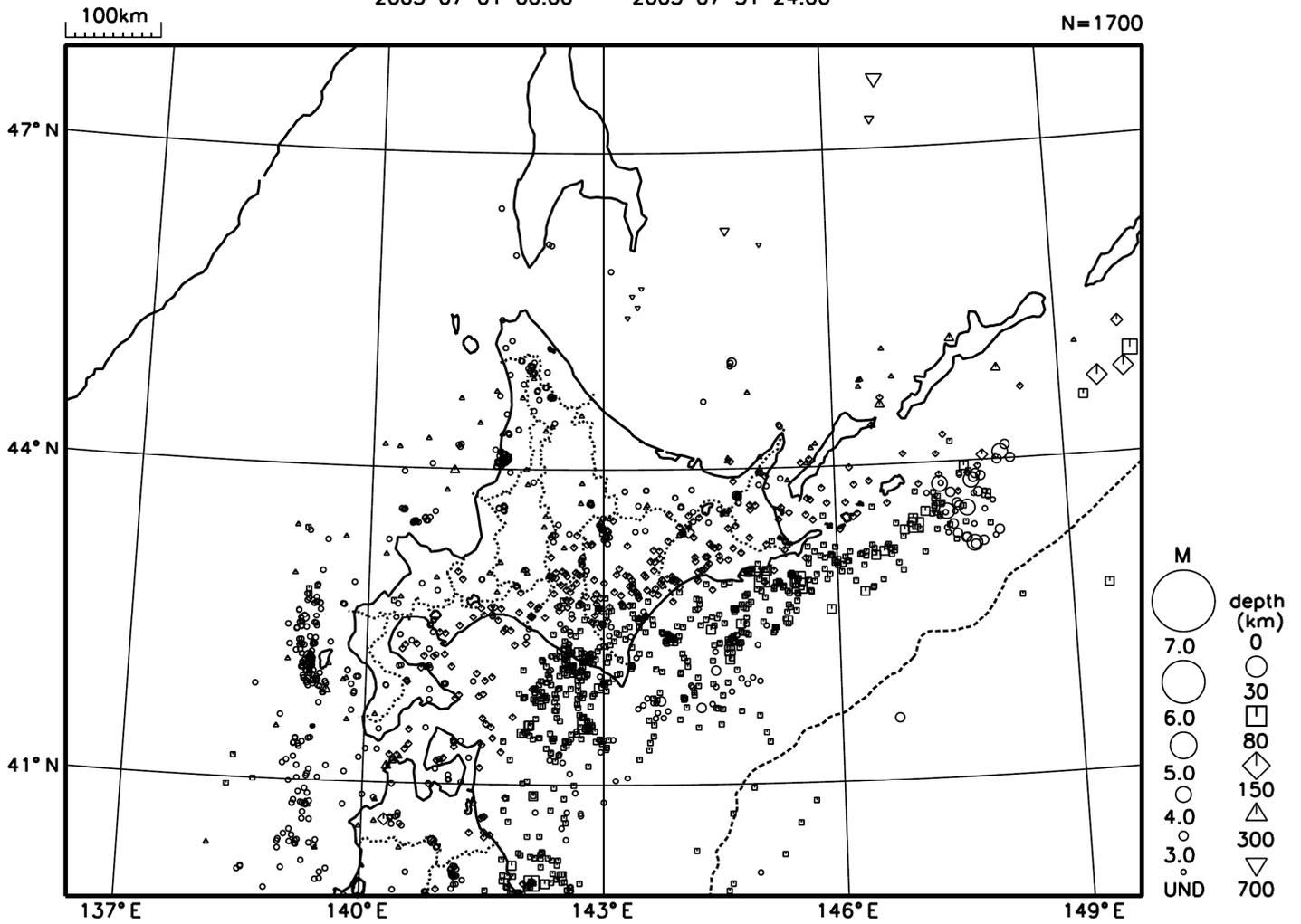
千葉県北西部で7月23日にM6.0の地震があった。

【図中に日時分、マグニチュードを付した地震はM5.0以上の地震、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震はM6.0以上、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。】

北海道地方

2005 07 01 00:00 -- 2005 07 31 24:00

N=1700



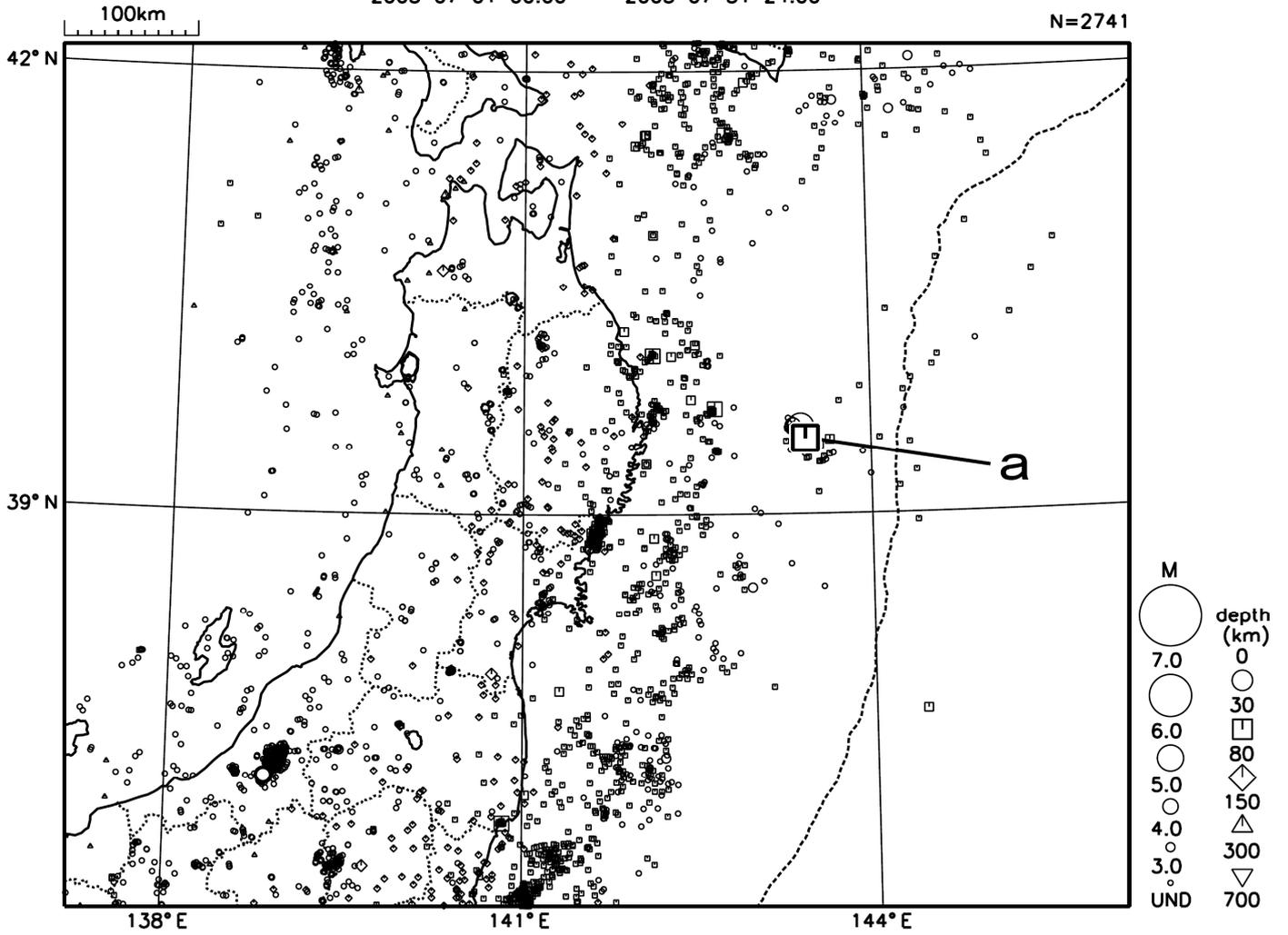
特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

東北地方

2005 07 01 00:00 -- 2005 07 31 24:00

N=2741



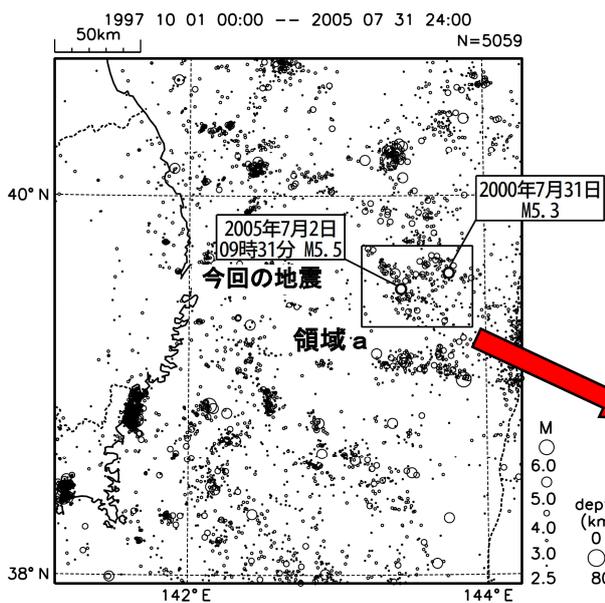
a) 7月2日に三陸沖でM5.5 (最大震度3) の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

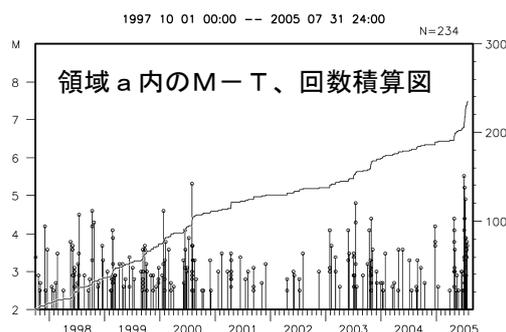
7月2日 三陸沖の地震

A

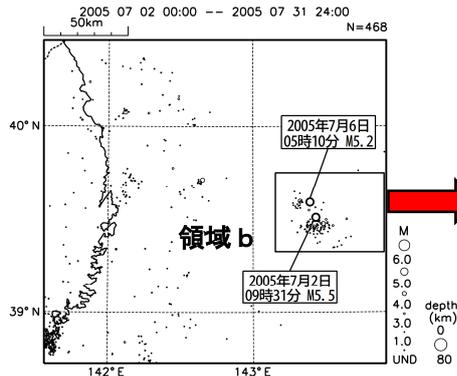
震央分布図 (1997年10月以降、 $M \geq 2.5$)



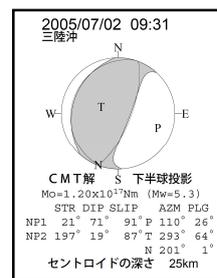
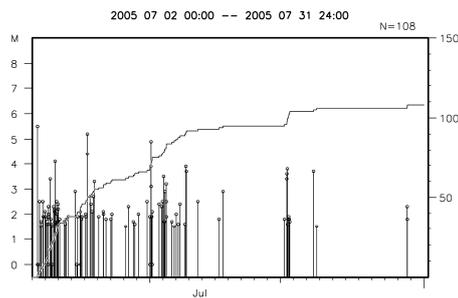
2005年7月2日09時31分に三陸沖でM5.5 (最大震度3) の地震が発生した。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界の地震と考えられる。6日05時10分にもM5.2の地震 (最大震度2) が発生するなどやや活発な地震活動がみられたが、7月末までにはほぼ収まった。今回の地震の震源付近では2000年7月31日にM5.3 (最大震度1) の地震が発生している。(A)



今回の地震活動の状況 (Mすべて)



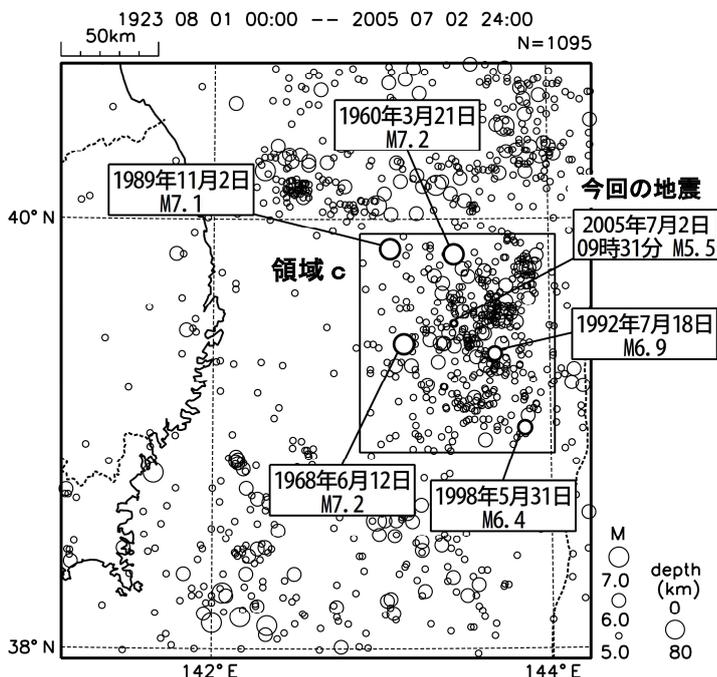
領域b内のM-T、回数積算図



今回の地震の発震機構 (CMT解)

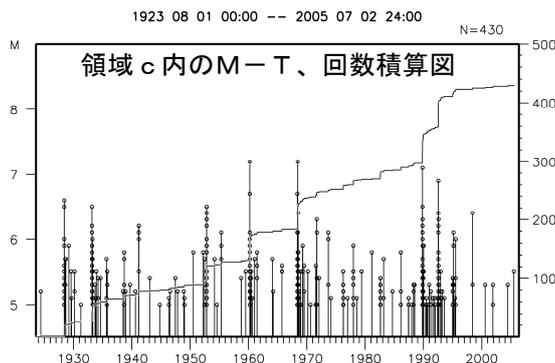
B

震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 5.0$)

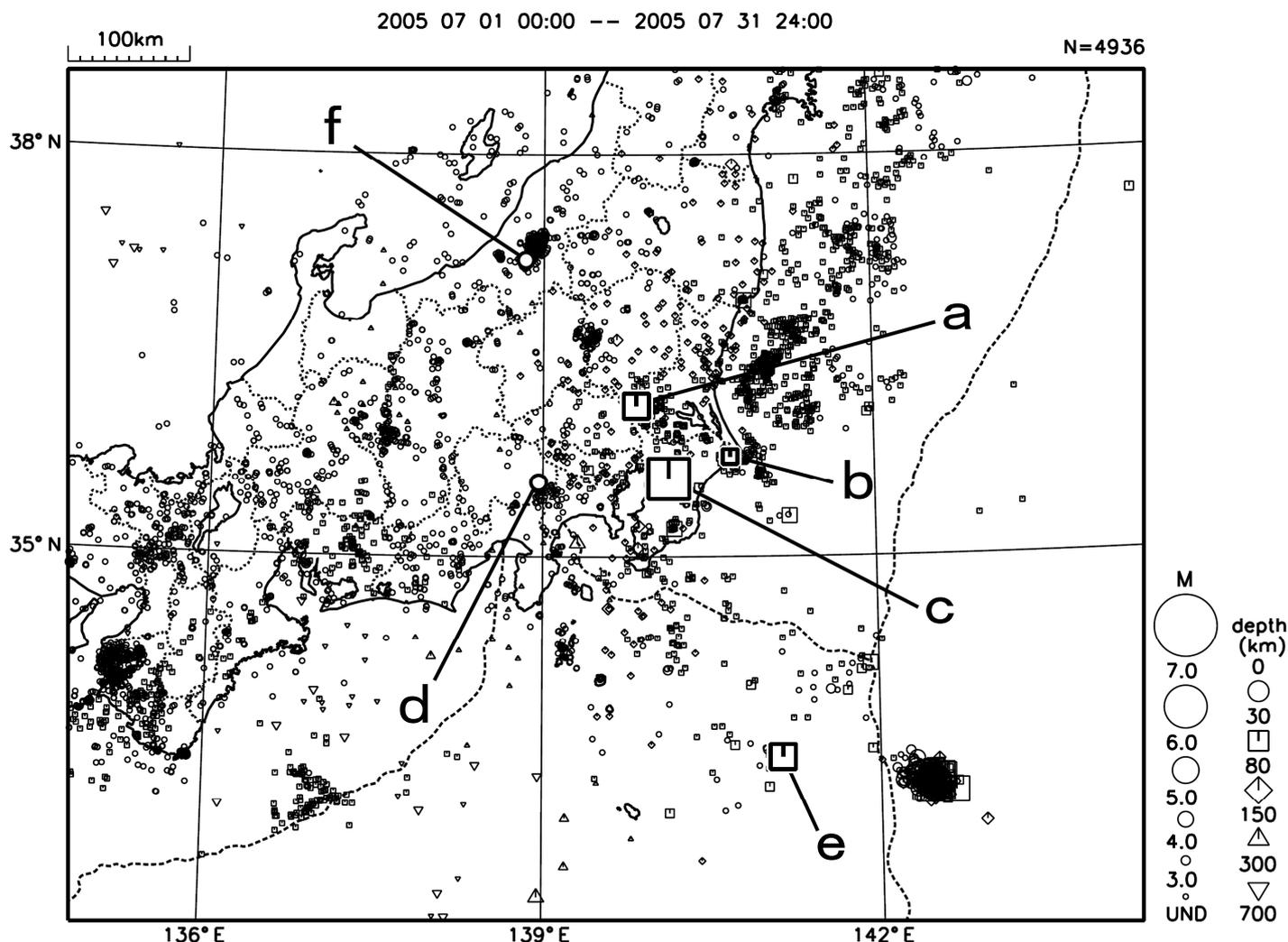


1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近およびその周辺 (領域c) では、M7.0以上の地震が3回観測されているほか、M5.0以上の地震が数多く発生している。

一方、三陸沖の活動域から西側の岩手県の沿岸に近い領域では、対照的にM5.0以上の地震が非常に少ない領域であり、過去に大きな地震は知られていない。(B)



関東・中部地方



- a) 7月28日に茨城県南部でM5.0（最大震度4）の地震があった。
- b) 7月22日に千葉県北東部でM4.4（最大震度3）の地震があった。
- c) 7月23日に千葉県北西部でM6.0（最大震度5強）の地震があった。
- d) 7月31日に山梨県東部でM4.4（最大震度4）の地震があった。
- e) 7月10日に八丈島東方沖でM5.8（最大震度3）の地震があった。
- f) 7月9日に新潟県中越地方でM4.3（最大震度4）の地震があった。
この地震は平成16年（2004年）新潟県中越地震の余震である。

（上記期間外）

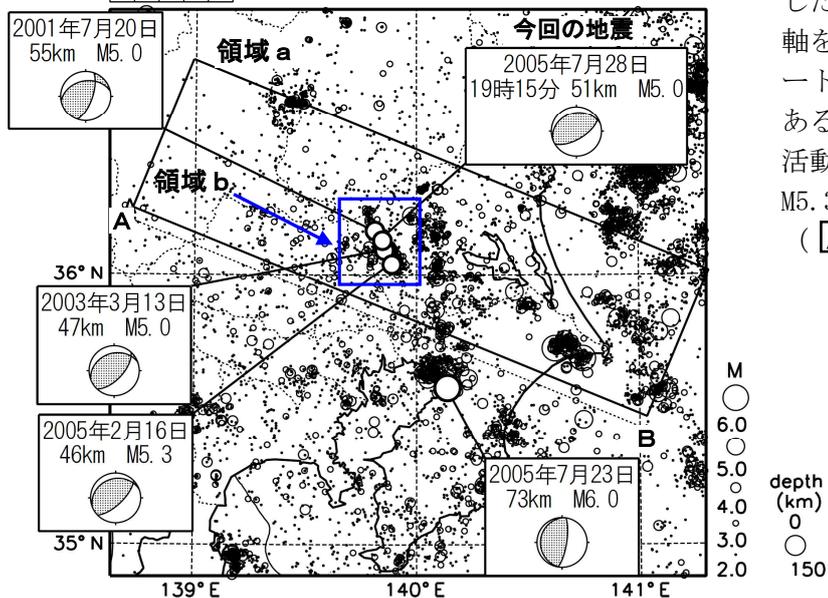
8月7日に千葉県北西部でM4.7（最大震度4）の地震があった。この地震は7月23日の千葉県北西部の地震の余震である。

8月8日に茨城県沖でM5.5の地震（最大震度3）があった。

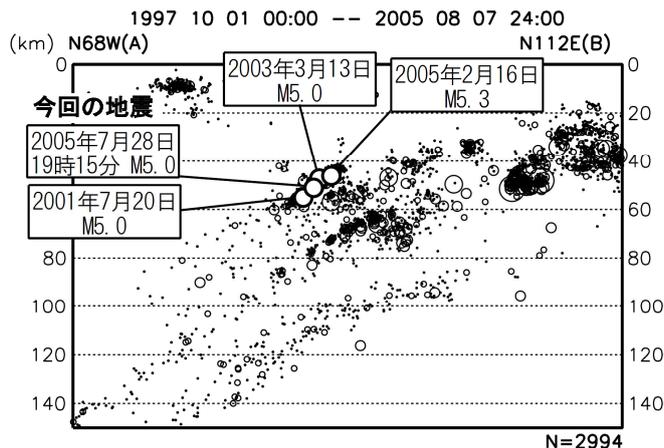
[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

7月28日 茨城県南部の地震

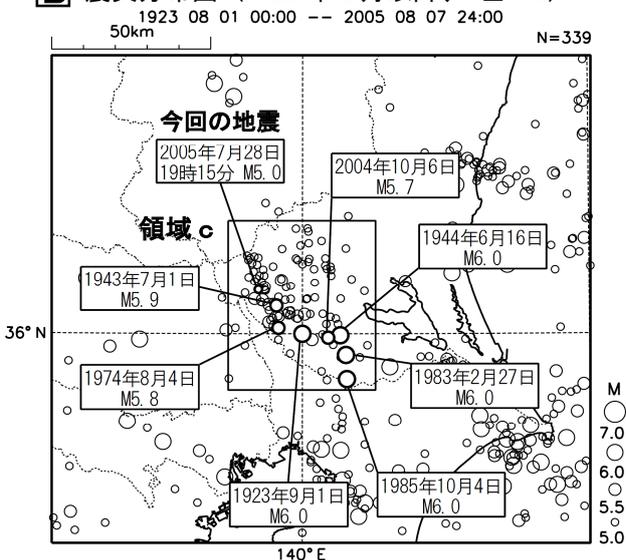
A 震央分布図 (1997年10月以降、 $M \geq 2.0$)
1997 10 01 00:00 -- 2005 08 07 24:00
50km N=10320



領域a内の断面図 (A-B投影)

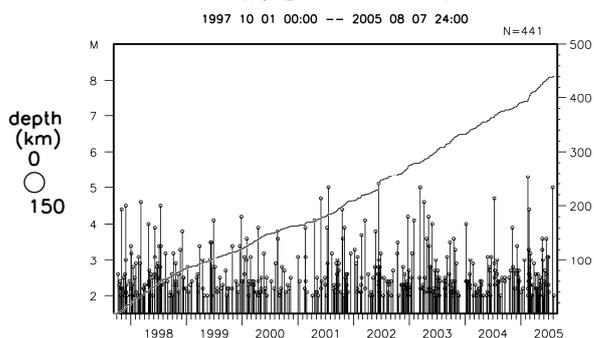


B 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 5.0$)

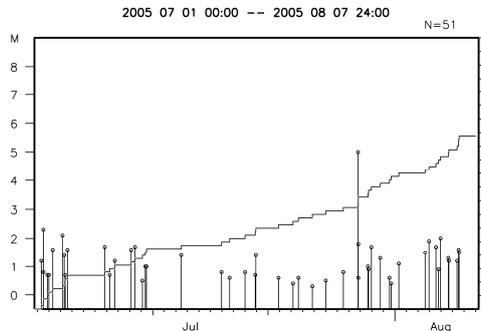


2005年7月28日19時15分に茨城県南部の深さ51kmで $M 5.0$ (最大震度4)の地震が発生した。発震機構は北北西-南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。今回の地震の震源付近には活発な地震活動域があり、最近では2005年2月16日に $M 5.3$ (最大震度5弱)の地震が発生している。(A)

領域b内のM-T、回数積算図 (深さ40km~70km)

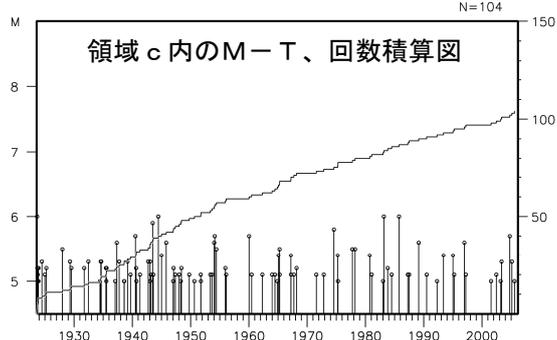


領域b内のM-T、回数積算図 (2005年7月以降、深さ40km~70km、Mすべて)



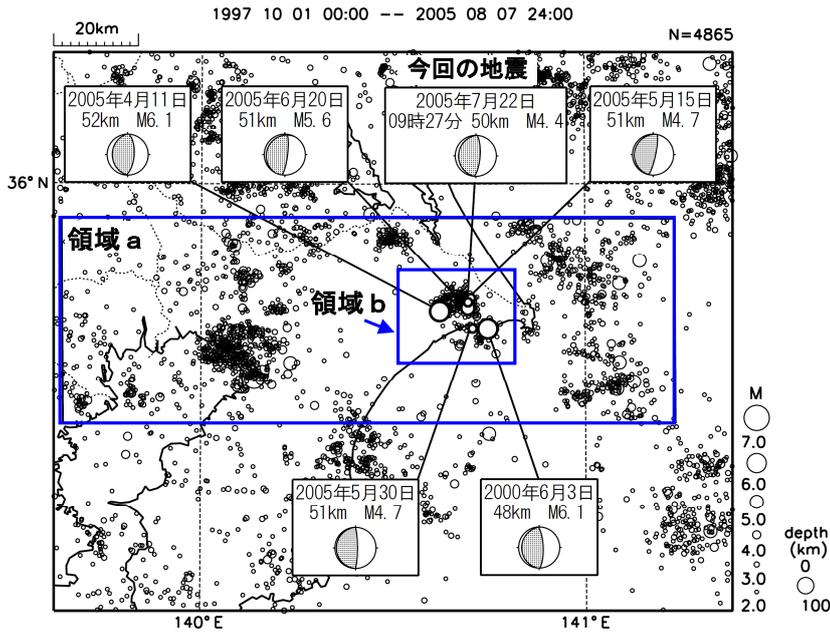
1923年8月以降、今回の地震の震央付近では $M 6.0$ 以上の地震が4回観測されているが、1985年10月4日の $M 6.0$ (最大震度5)の地震以降、 $M 6.0$ 以上の地震は発生していない。(B)

1923 08 01 00:00 -- 2005 08 07 24:00 N=104



7月22日 千葉県北東部の地震

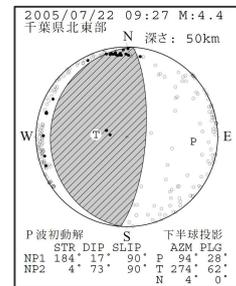
震央分布図 (1997年10月以降、 $M \geq 2.0$)



2005年7月22日09時27分に千葉県北東部の深さ50kmでM4.4(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震である。

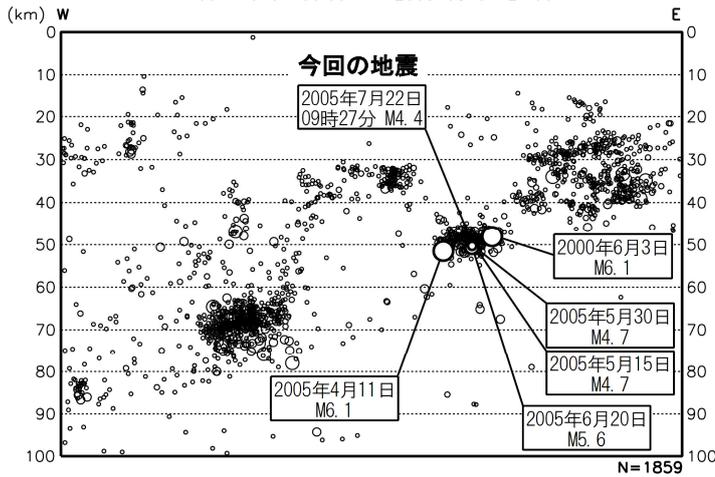
今回の地震の震源付近では、2005年4月11日にM6.1(最大震度5強)の地震が発生した後、5月15日にM4.7(最大震度2)、5月30日にM4.7(最大震度3)、6月20日にM5.6(最大震度4)の地震が発生するなど、活動度の高い状態が続いている。

今回の地震の発震機構



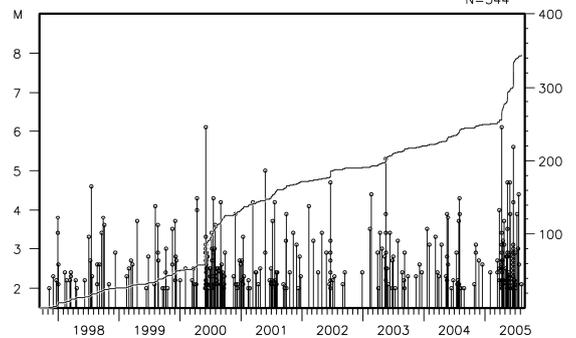
領域 a 内の東西断面図

1997 10 01 00:00 -- 2005 08 07 24:00



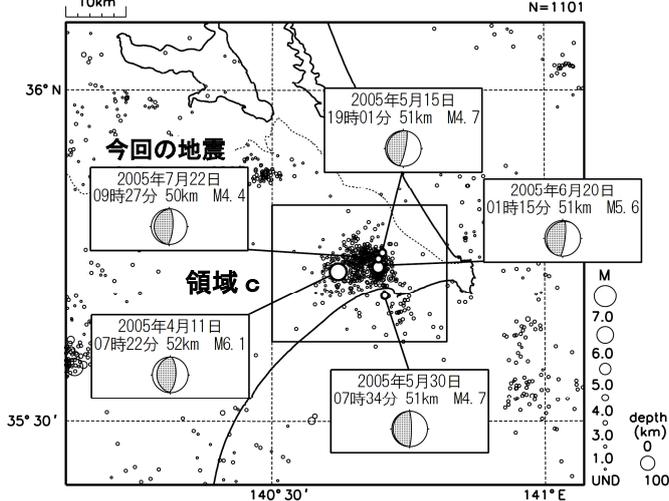
領域 b 内の地震活動経過図、回数積算図

1997 10 01 00:00 -- 2005 08 07 24:00 N=344



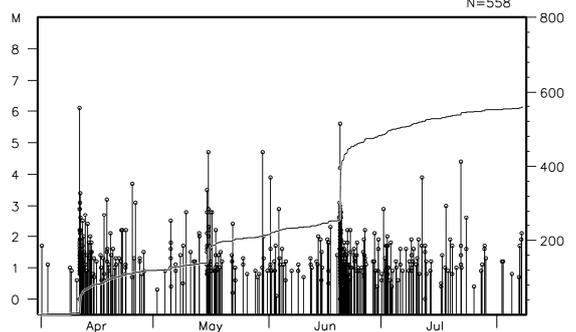
2005年4月11日の地震(M6.1)以降の活動 (2005年4月以降、Mすべて)

2005 04 01 00:00 -- 2005 08 07 24:00 N=1101



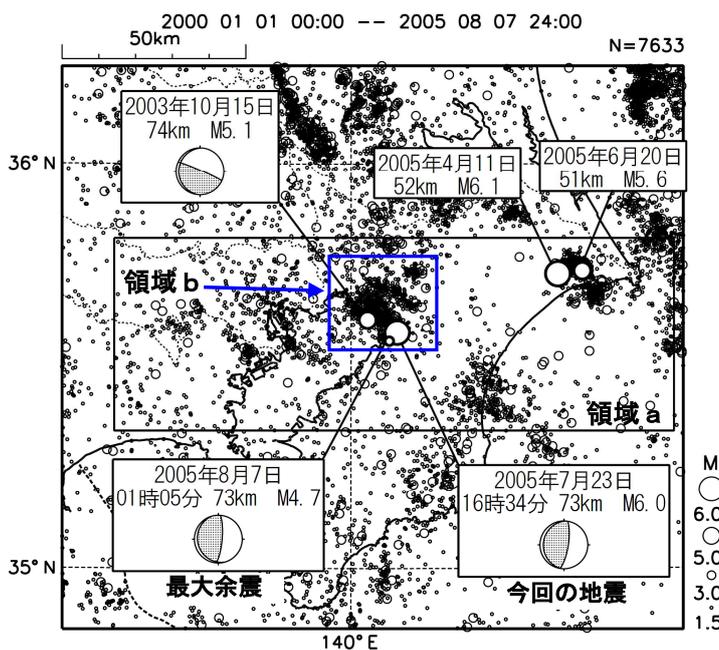
領域 c 内の地震活動経過図、回数積算図

2005 04 01 00:00 -- 2005 08 07 24:00 N=558



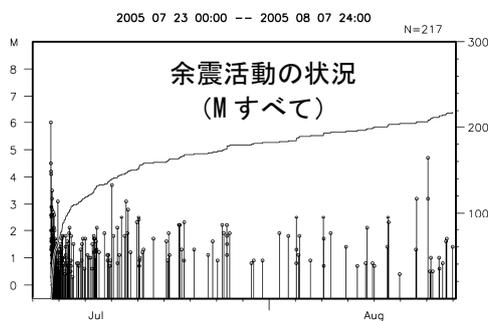
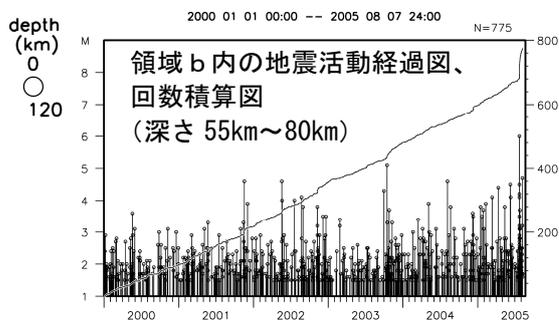
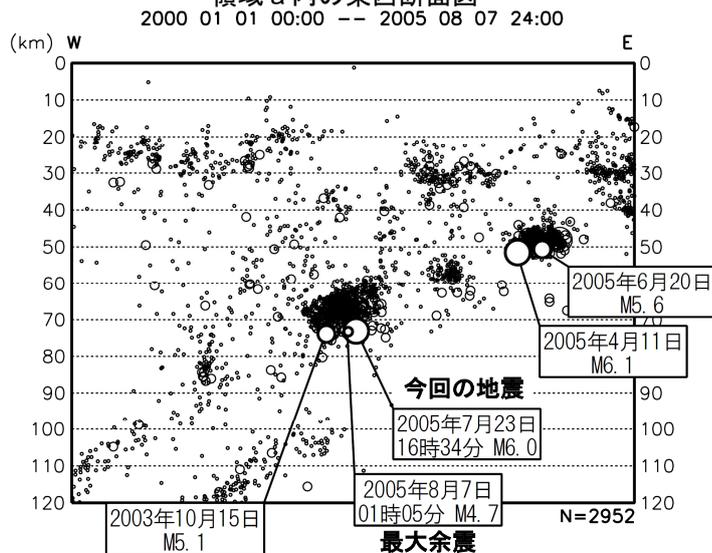
7月23日 千葉県北西部の地震

A 震央分布図 (2000年以降、 $M \geq 1.5$)

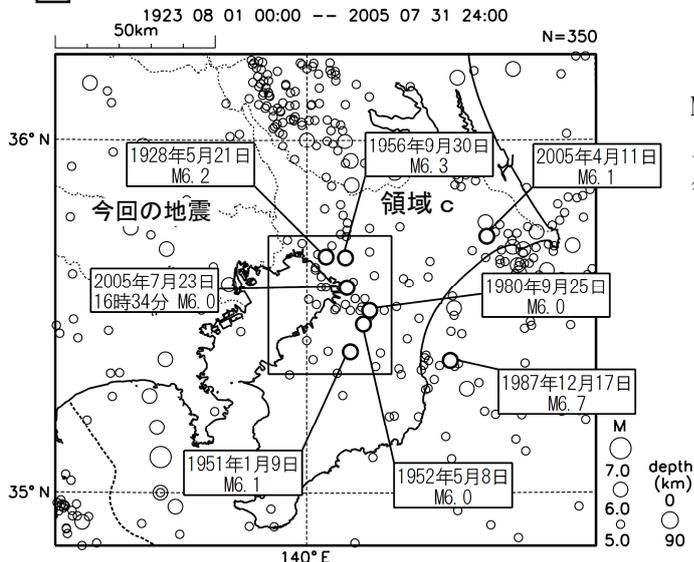


2005年7月23日16時34分に千葉県北西部の深さ73kmでM6.0(最大震度5強)の地震が発生した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界付近で発生した地震である。8月7日にはこれまでの最大となるM4.7の余震(最大震度4)が発生した。この地震の後、若干地震の増加が見られたが、余震活動は本震-余震型で推移している。今回の地震の震源付近にはクラスタ状の活発な地震活動域があり、同じクラスタ内では、2003年10月15日にM5.1(最大震度4)の地震が発生している。(A)

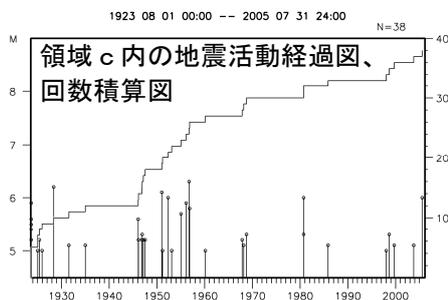
領域 a 内の東西断面図



B 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 5.0$)

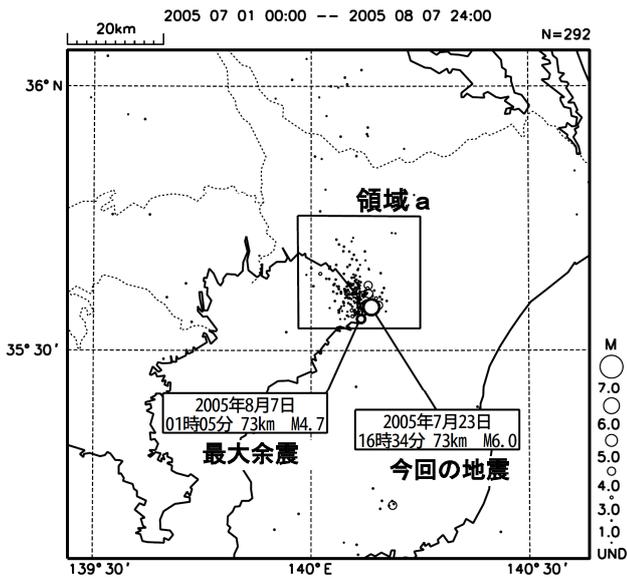


1923年8月以降今回の地震の震源付近でM6.0以上の地震が観測されたのは、1980年9月25日のM6.0の地震以来である。また、1950年代にはM6.0以上の地震が3回観測されており、地震活動がやや活発であった。(B)

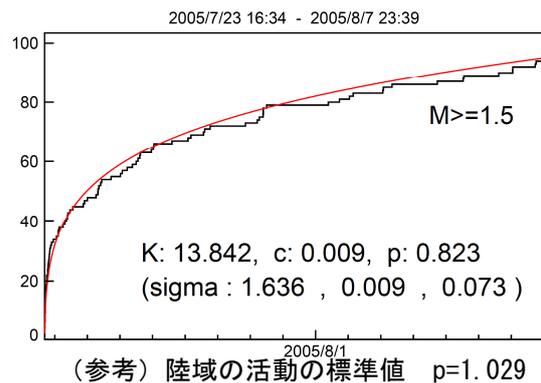
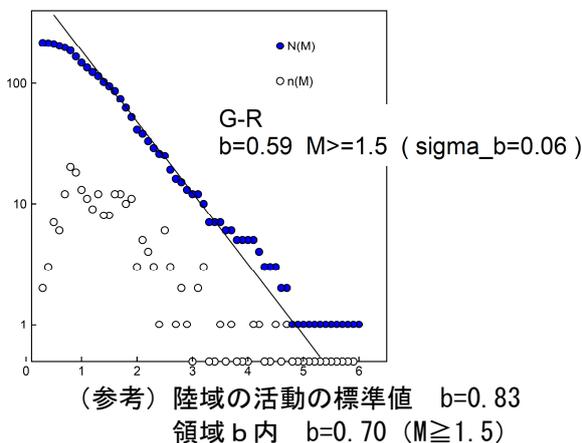
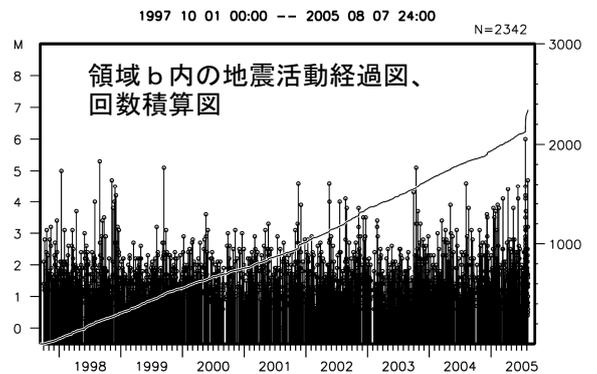
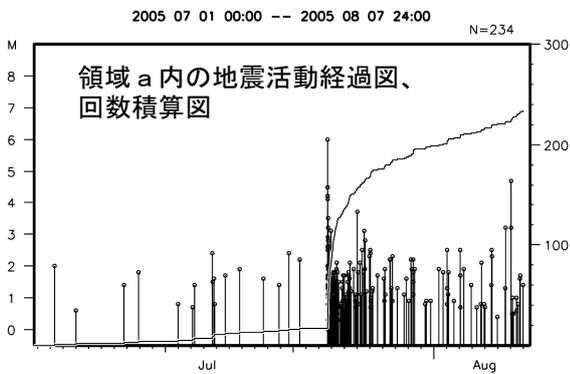
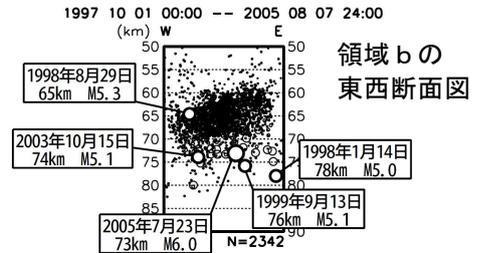
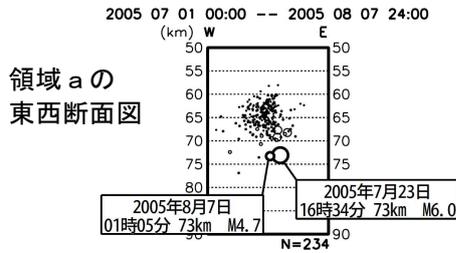
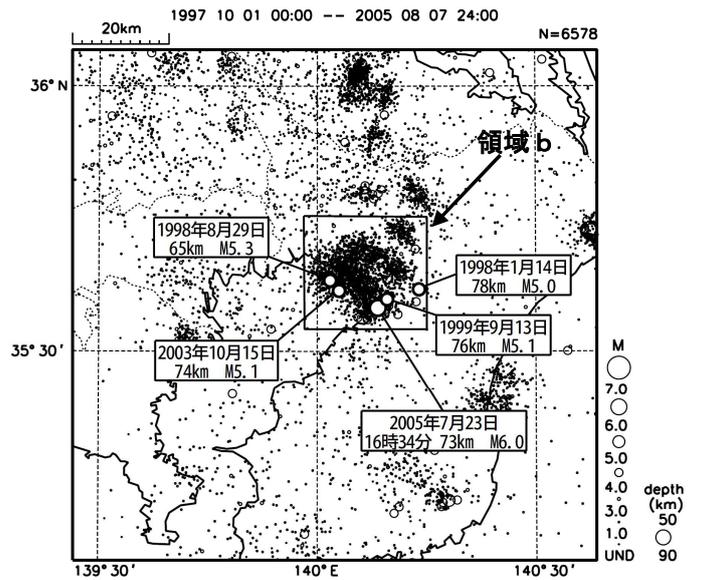


7月23日 千葉県北西部の地震（2）

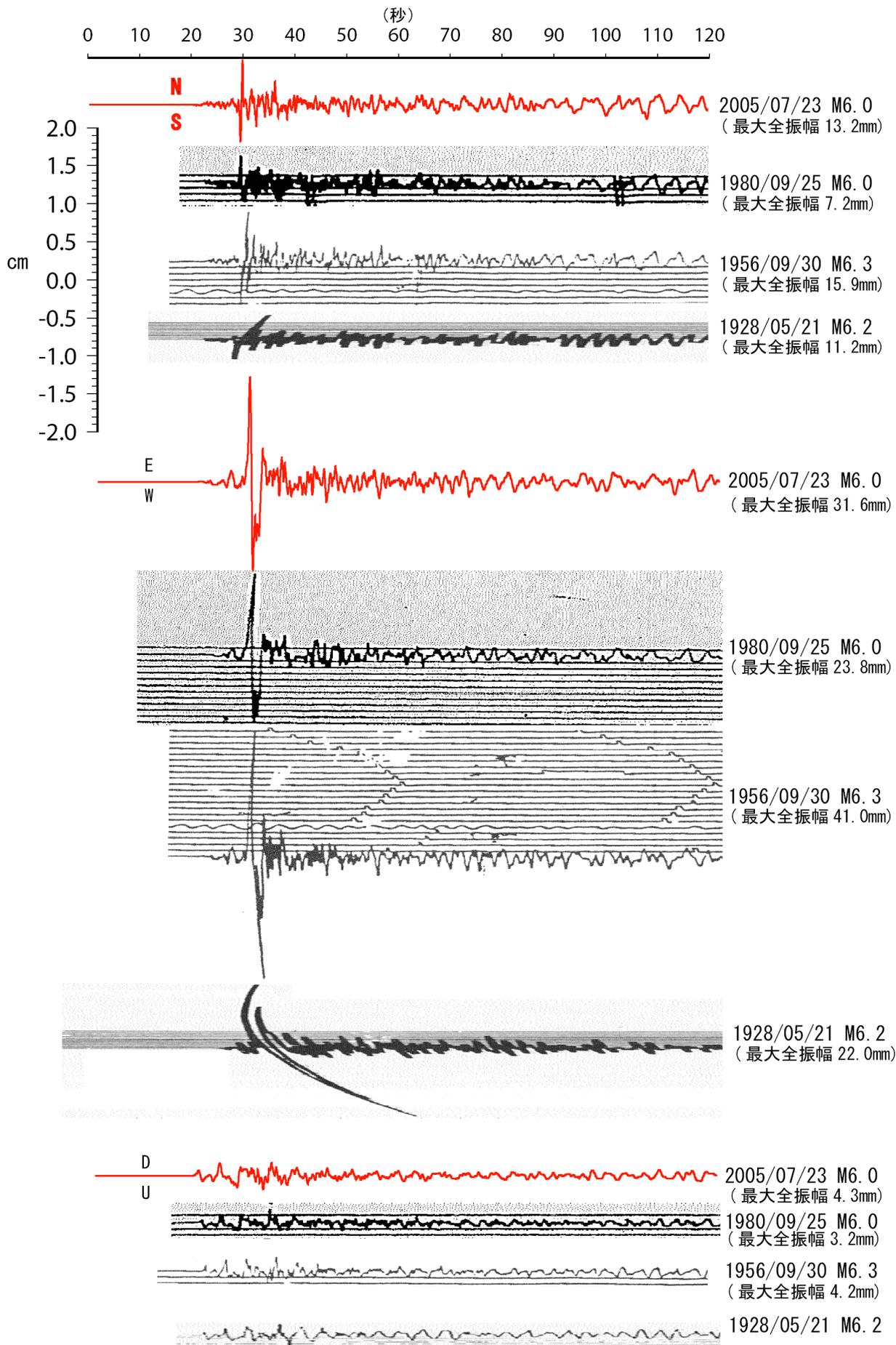
震央分布図（2005年7月以降、Mすべて、深さ50~90km）



震央分布図（1997年10月以降、Mすべて、深さ50~90km）



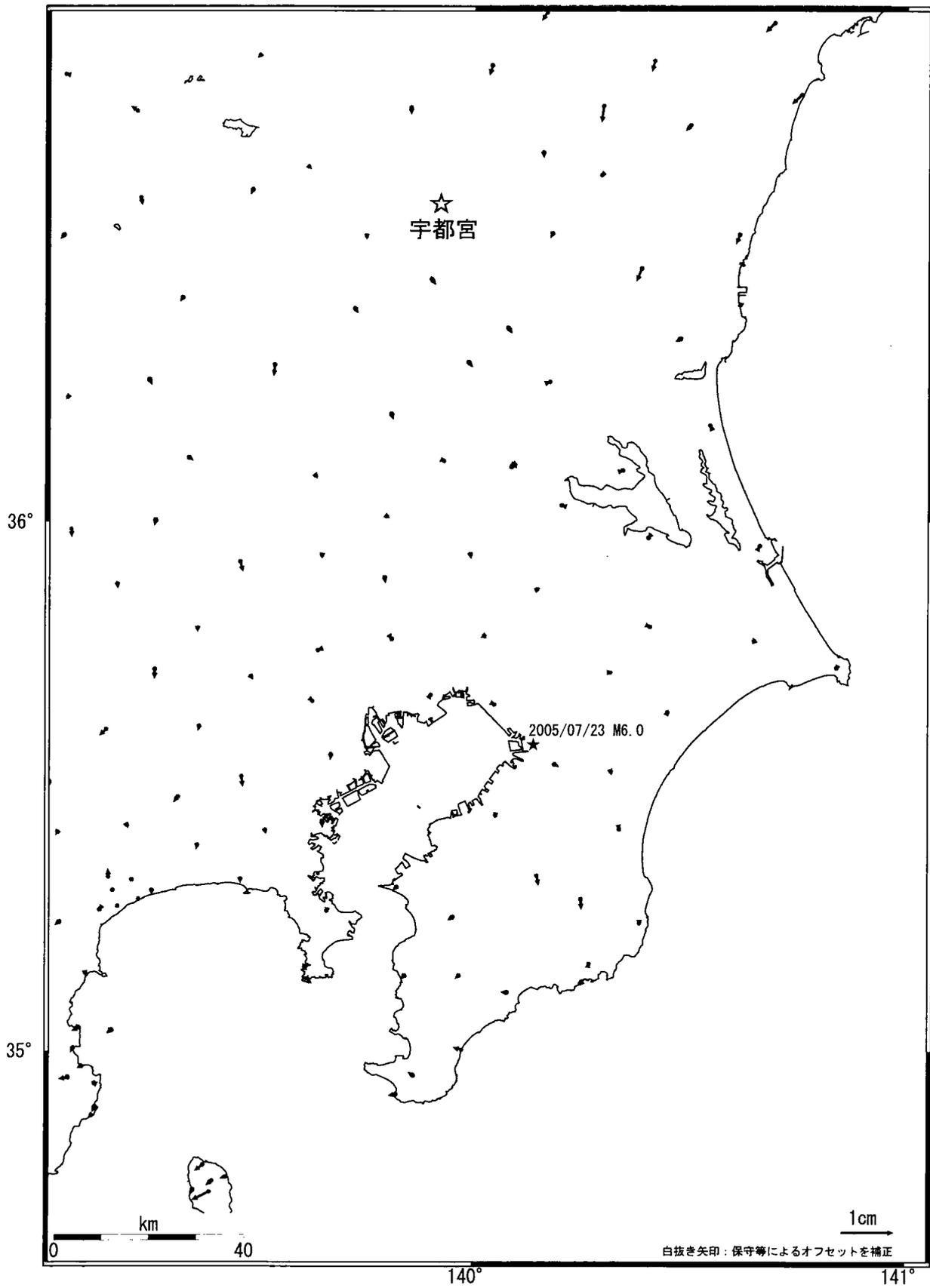
東京 (TOKYO) 観測点における変位記録 (機械式強震計) の比較



2005年7月23日 千葉県北西部の地震 水平変動図

基準期間：2005/07/16-2005/07/22[F2:最終解]

比較期間：2005/07/24-2005/07/30[R2:速報解]

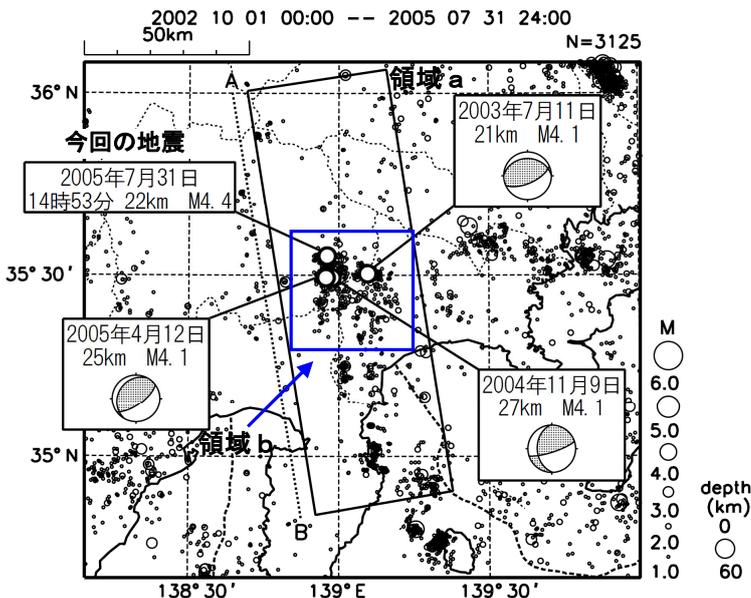


☆固定局：宇都宮(950219)

国土地理院

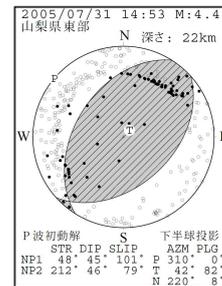
7月31日 山梨県東部の地震

A 震央分布図 (2002年10月以降、 $M \geq 1.0$)

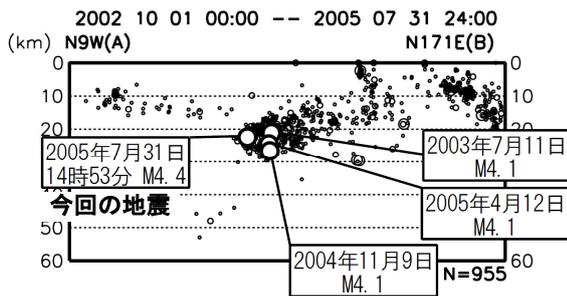


2005年7月31日14時53分に山梨県東部の深さ22kmでM4.4(最大震度4)の地震が発生した。発震機構は、北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートが衝突していると考えられる場所で発生した地震である。今回の地震の付近では、最近では2005年4月12日にM4.1(最大震度2)の地震が発生している。(A)

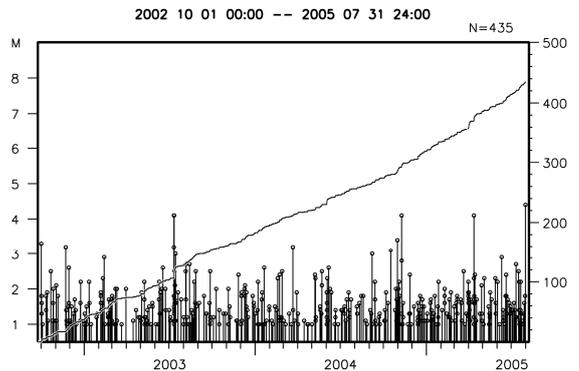
今回の地震の発震機構



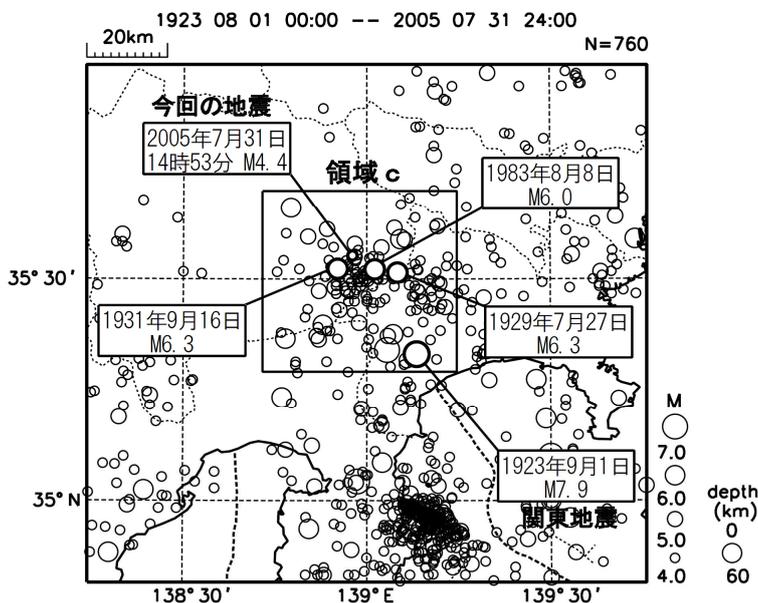
領域 a 内の断面図 (A-B 投影)



領域 b 内のM-T、回数積算図

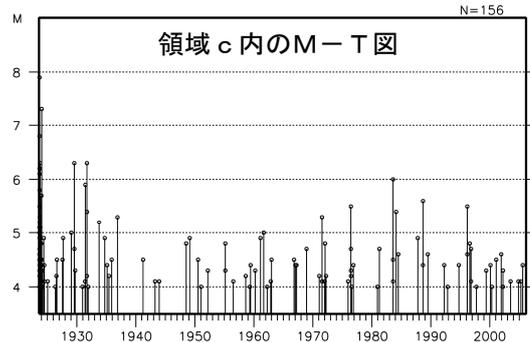


B 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 4.0$)



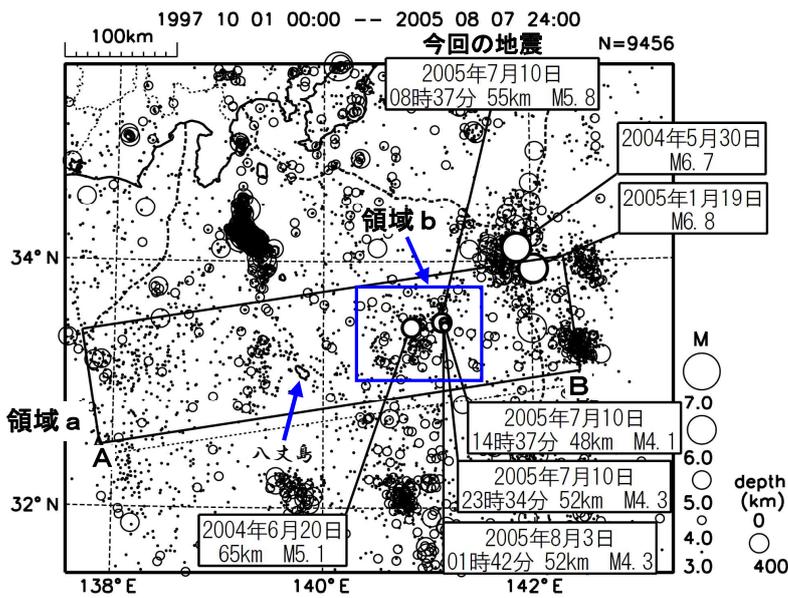
1923年8月以降の活動をみると、1923年の関東地震の活動以降では、M6.0以上の地震が3回発生している。最近では1983年8月8日にM6.0(最大震度4)の地震が発生している。(B)

領域 c 内のM-T図



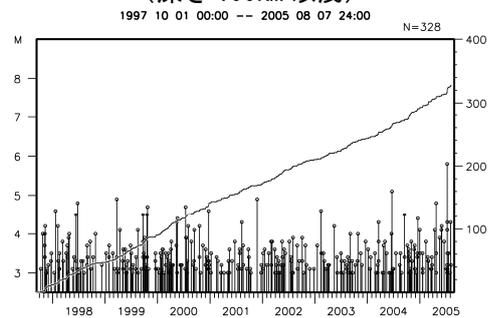
7月10日 八丈島東方沖の地震

A 震央分布図 (1997年10月以降、 $M \geq 3.0$)

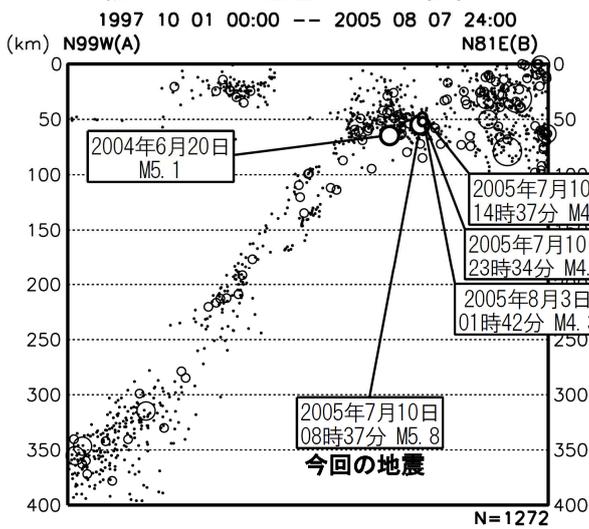


2005年7月10日08時37分に八丈島東方沖の深さ55kmでM5.8(最大震度3)の地震が発生した。発震機構(CMT解)は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、太平洋プレートの沈み込みに伴う地震である。周辺では、同日14時37分にM4.1(最大震度1)、23時34分にM4.3(最大震度1)、8月3日01時42分にM4.3(最大震度1)の地震が発生するなど、地震活動がやや活発な状態にある。(A)

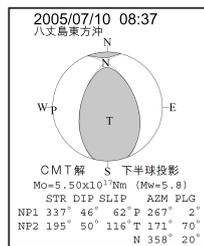
領域 b 内の M-T & 回数積算図 (深さ 100km 以浅)



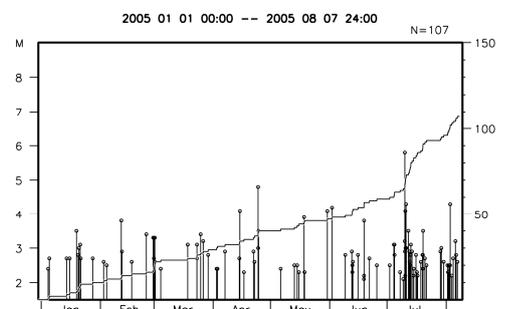
領域 a 内の断面図 (A-B 投影)



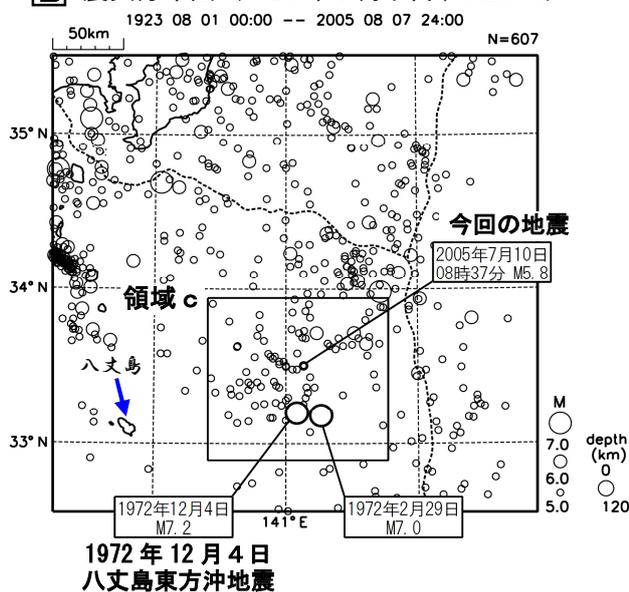
今回の地震の発震機構 (CMT 解)



領域 b 内の M-T & 回数積算図 (2005 年以降、深さ 100km 以浅、 $M \geq 2.0$)

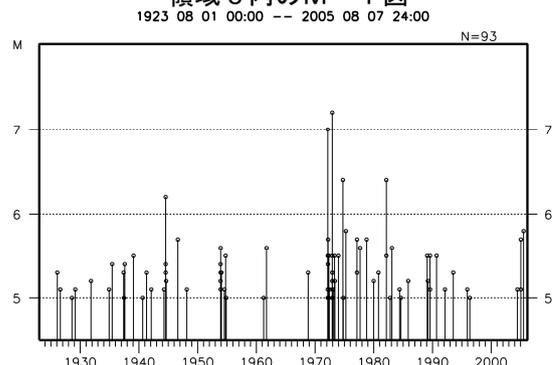


B 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 5.0$)

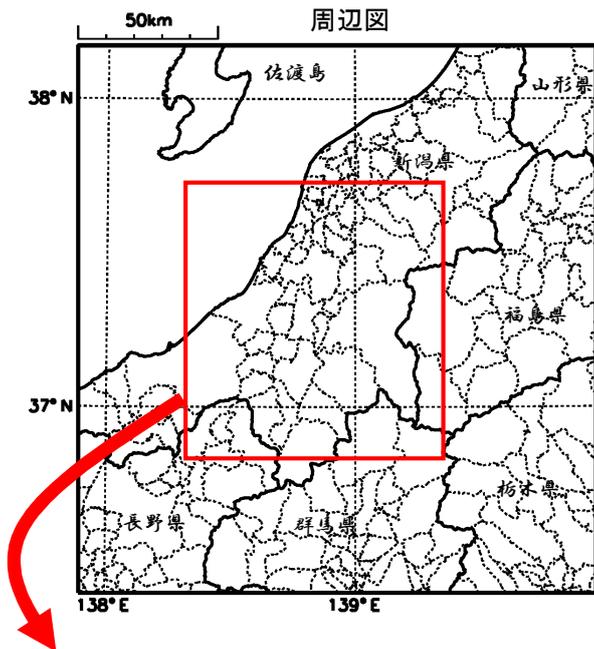


1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近では、1972年2月29日にM7.0、同年12月4日にM7.2(「1972年12月4日八丈島東方沖地震」)の地震が発生している。(B)

領域 c 内の M-T 図



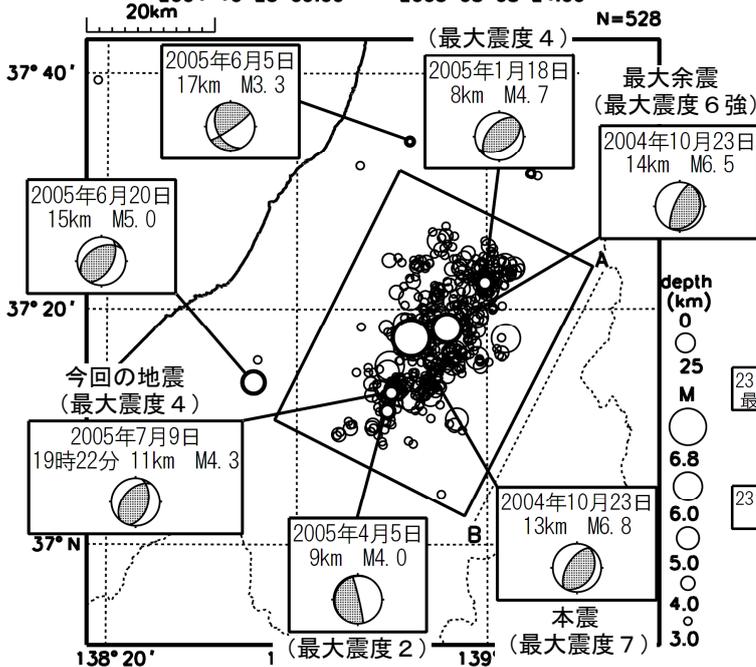
平成 16 年（2004 年）新潟県中越地震の余震活動



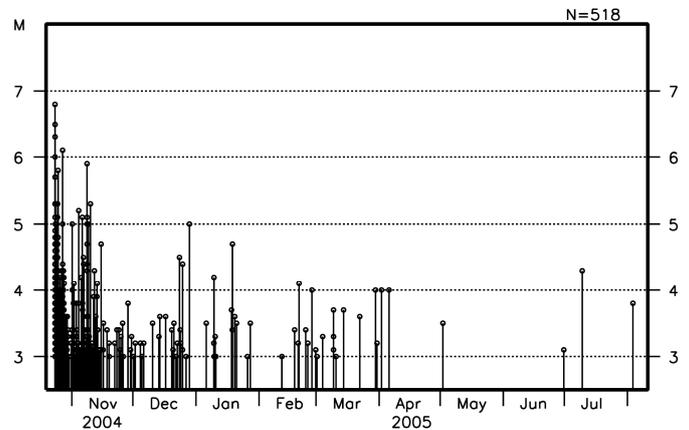
平成 16 年（2004 年）新潟県中越地震（M6.8、最大震度 7、10 月 23 日 17 時 56 分）の余震活動は、規模・発生個数共に低下している。

2005 年 7 月 9 日 19 時 22 分に M4.3（最大震度 4）の地震が発生した。発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、本震や最大余震とおよそ同じ型である。M4.0 以上の余震は、4 月 5 日に発生した M4.0（最大震度 2）の地震以来である。また、震度 4 以上を観測した余震は、1 月 18 日に発生した M4.7（最大震度 4）の地震以来である。

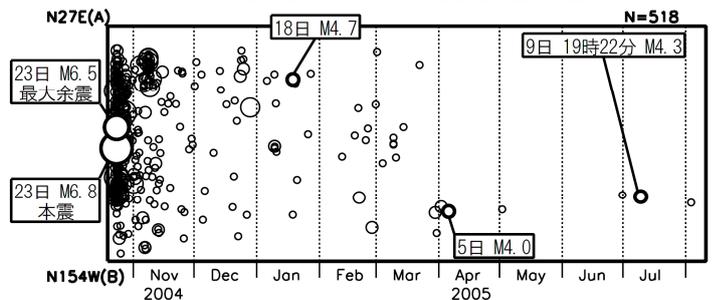
震央分布図（2004 年 10 月 23 日 09 時～、M \geq 3.0）
2004 10 23 09:00 -- 2005 08 08 24:00



地震活動経過図 (M \geq 3.0)
2004 10 23 09:00 -- 2005 08 08 24:00

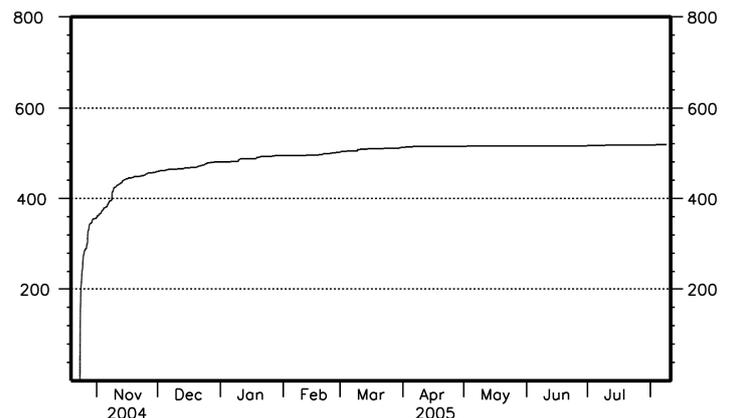


時空間分布図 (A-B 投影)
2004 10 23 09:00 -- 2005 08 08 24:00

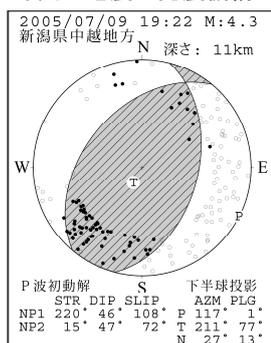


地震回数積算図 (M \geq 3.0)

2004 10 23 09:00 -- 2005 08 08 24:00



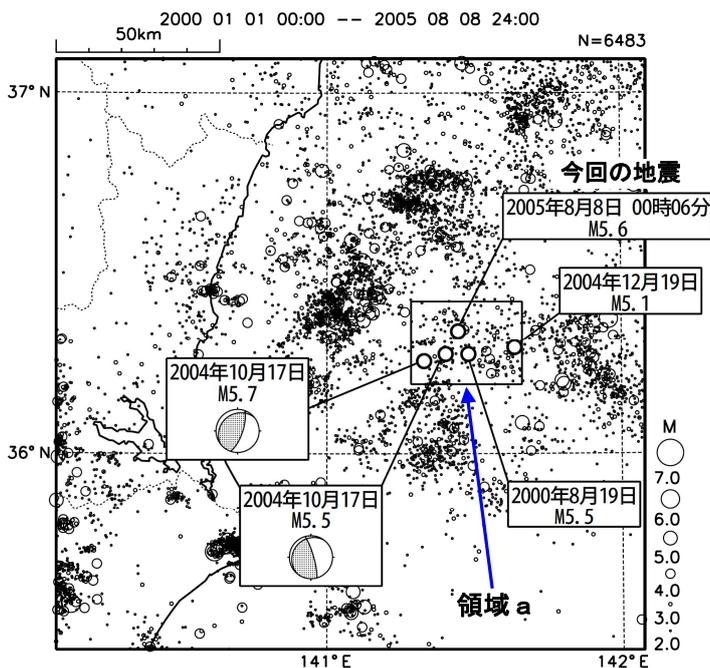
今回の地震の発震機構



8月8日 茨城県沖の地震

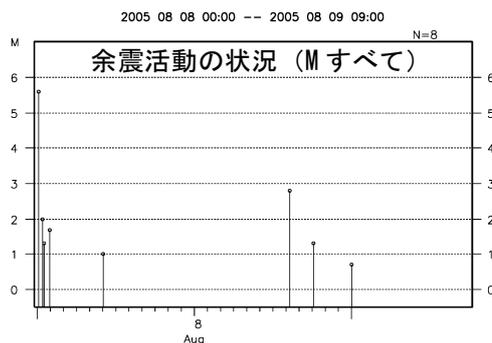
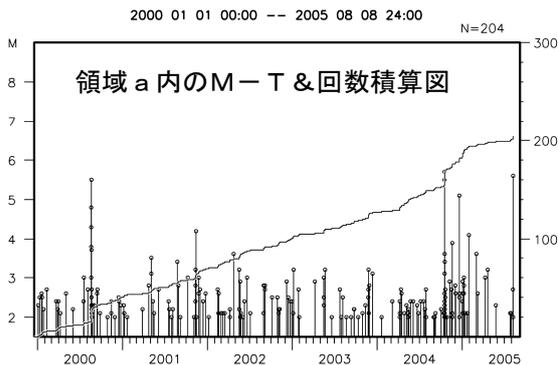
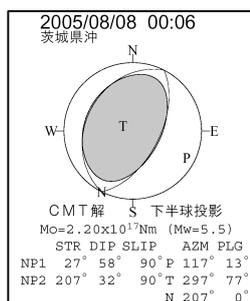
A

震央分布図 (2000年以降、 $M \geq 2.0$)



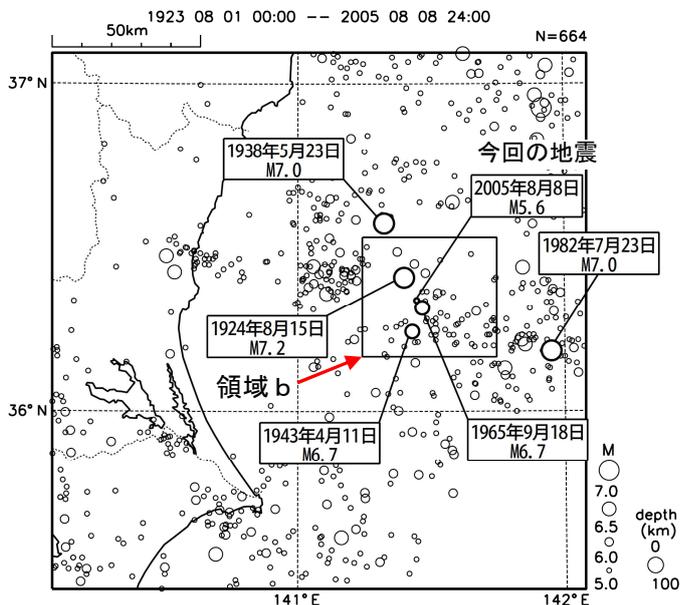
2005年8月8日00時06分に茨城県沖の深さ46kmでM5.6(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は東南東-西北西に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートの沈みこみに伴う地震である。余震活動はほぼ1日で収まった。

今回の地震の震源付近では、2004年10月17日にM5.5とM5.7の地震(ともに最大震度3)の地震が発生している。今回の地震の震源の周辺では2005年の初め頃から地震活動がやや低調であった。(A)



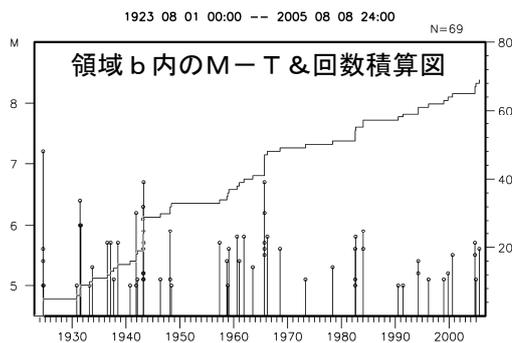
B

震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 5.0$)



1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の付近では、1924年8月15日にM7.2の地震が発生している。また、今回の地震の震央に近いところで1965年9月18日にM6.7の地震が発生している。

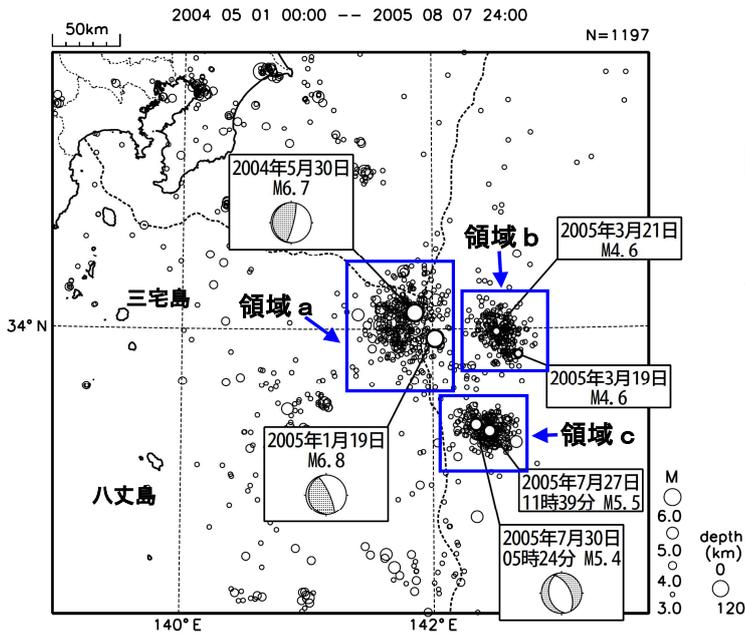
なお、今回の地震の震央付近では、1970年代以降からは、M6.0以上は観測されていない。(B)



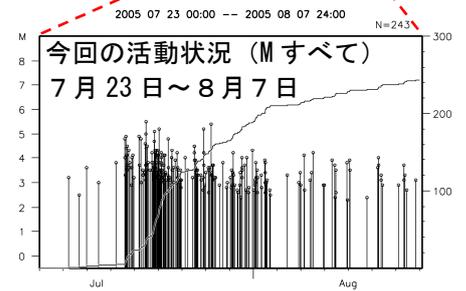
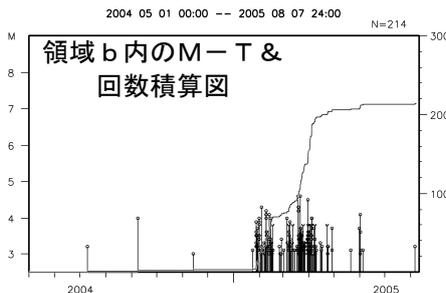
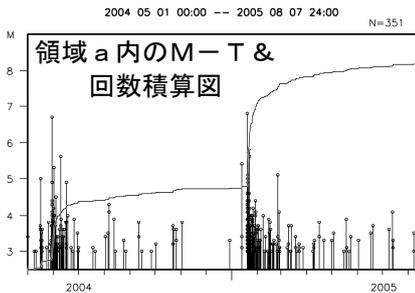
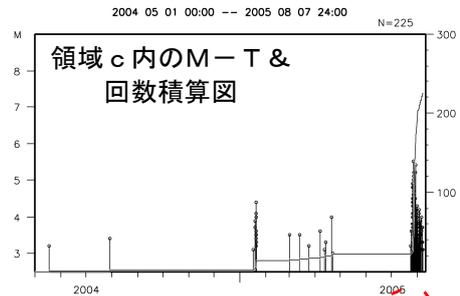
八丈島東方沖の地震活動

A

震央分布図 (2004年5月以降、M \geq 3.0)

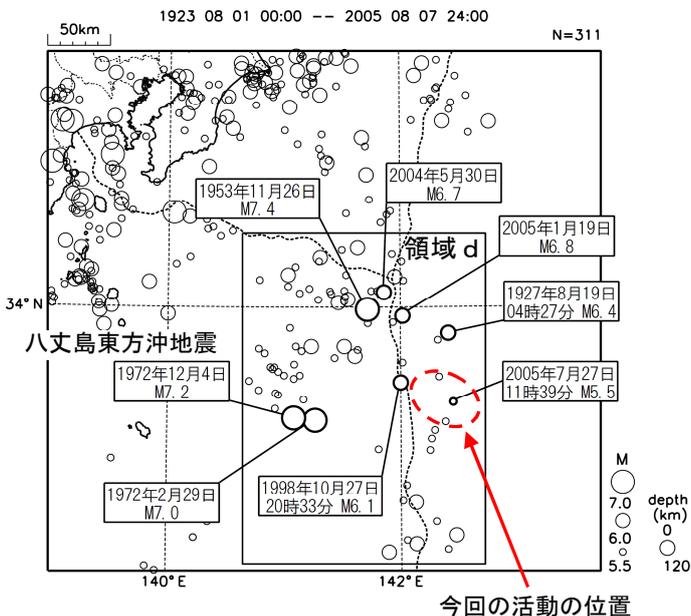


2005年7月26日頃から八丈島東方沖(三重会合点の南東側〔領域c〕)で地震活動が活発となった。プレートの三重会合点付近では2005年1月19日のM6.8の地震以降、今回を含めて3つの領域で活発な活動が発生している。今回の活動における最大の地震は27日のM5.5の地震である。地震活動は8月に入って収まりつつあるように見える。(A)

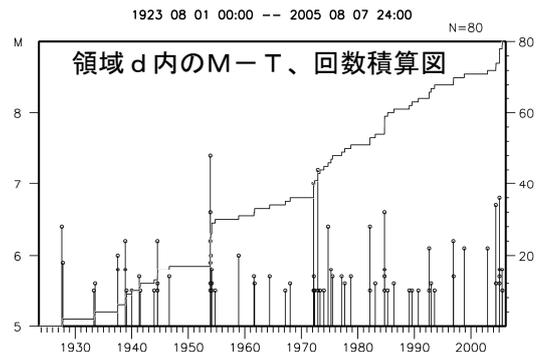


B

震央分布図 (1923年8月以降、M \geq 5.5)

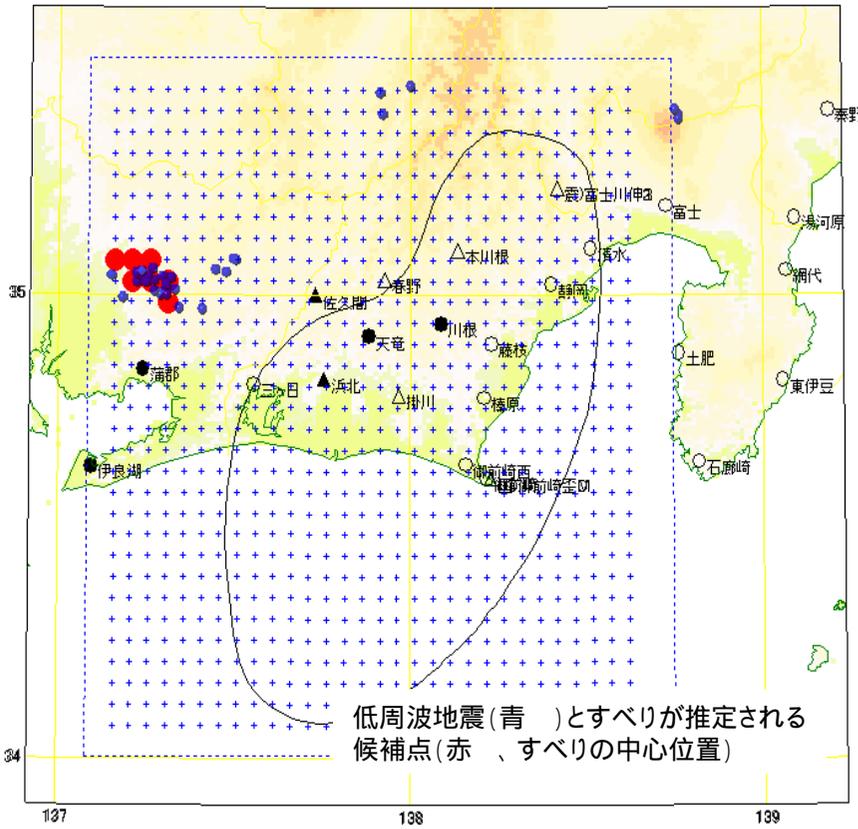


1923年8月以降の活動をみると、三重会合点から八丈島東方沖にかけての海域では、1953年11月26日(M7.4)、1972年2月29日(M7.0)、1972年12月4日(M7.2)とM7.0以上の地震が3回観測されている。今回の活動域の近傍では1998年10月27日にM6.1の地震が発生している。(B)



低周波地震の発生場所と発生時期との関係

2005 7/14 0:0 -- 2005 07/21 23:59



すべりが起きている可能性があると推定される場所と低周波地震の発生場所を重ねると、上のようになる。ほぼ、すべりが起きている可能性がある場所と、低周波地震の発生場所は一致している。

また、下の図のようにひずみ変化が発現した時期と、低周波地震が活発化した時期はほぼ一致する。ひずみ変化が落ち着いた後は、低周波地震の発生数も少なくなっている。

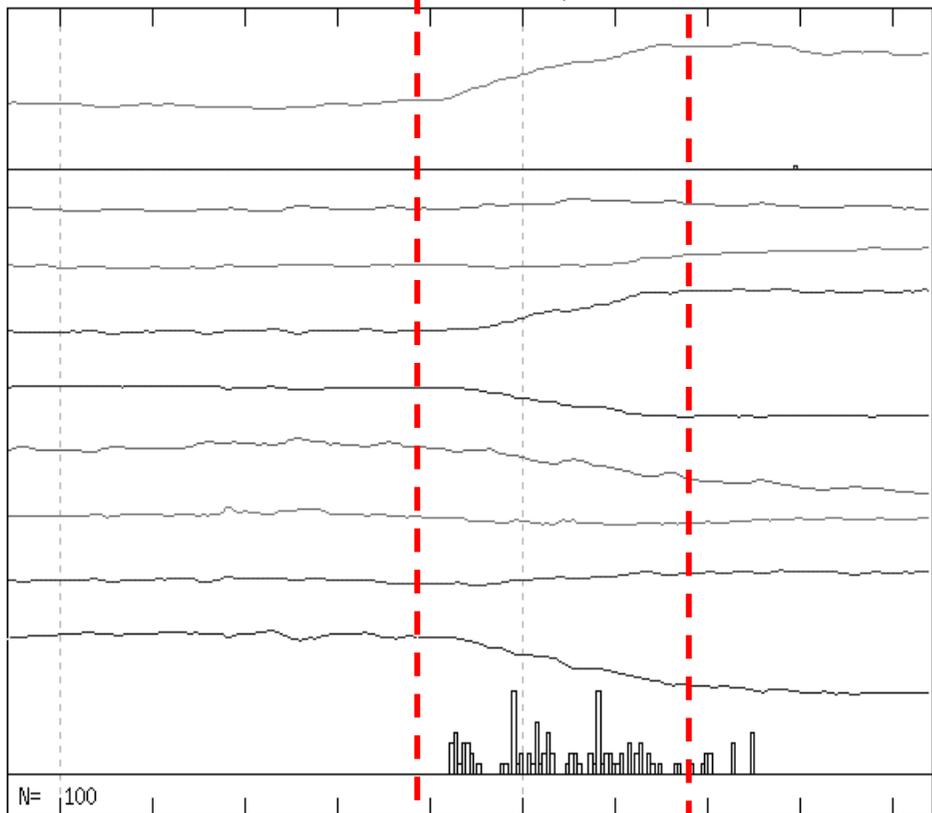
(左図の赤丸は、Mw5.8のすべりの候補点)

歪 (補正時間値)

2005/07/15 10:00 -- 2005/07/25 10:00

EXP. 1.0E-07 strain 10 count/Hour
20 hPa
60 mm/Hour
200 nT

- 蒲郡歪LP
-5.580000E-10/DAY
- 蒲郡歪雨
- 佐久間歪1(N135E)
1.240000E-08/DAY
- 佐久間歪2(N045E)
-1.350000E-08/DAY
- 佐久間歪3(N000E)
-3.800000E-09/DAY
- 佐久間歪4(N090E)
9.650000E-09/DAY
- 浜北歪1(N004E)
1.380000E-08/DAY
- 浜北歪2(N094E)
-1.030000E-08/DAY
- 浜北歪3(N229E)
2.480000E-09/DAY
- 浜北歪4(N139E)
1.030000E-08/DAY



愛知低周波地震回数

N= 100

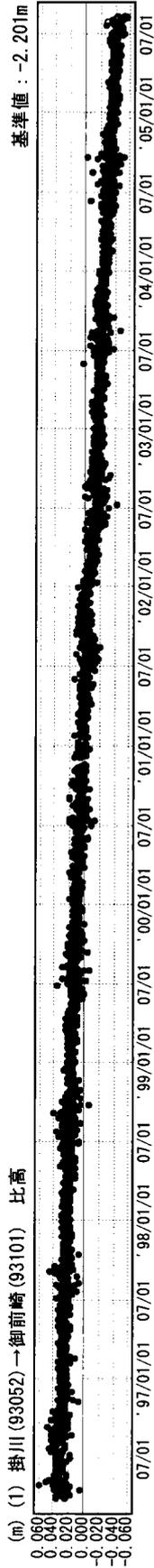
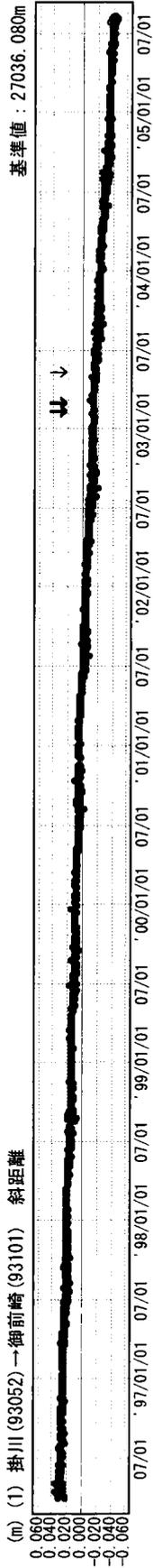
07/16

07/21

ひずみの時系列と愛知県の低周波地震回数

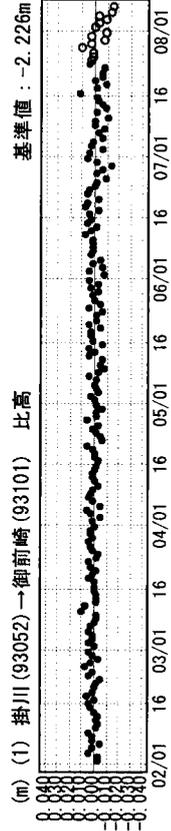
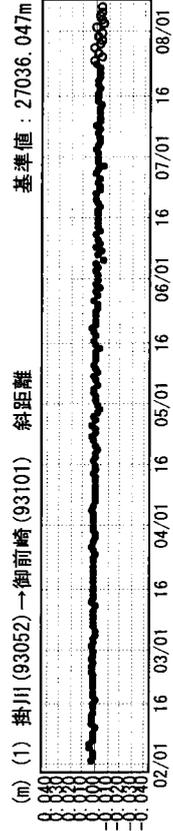
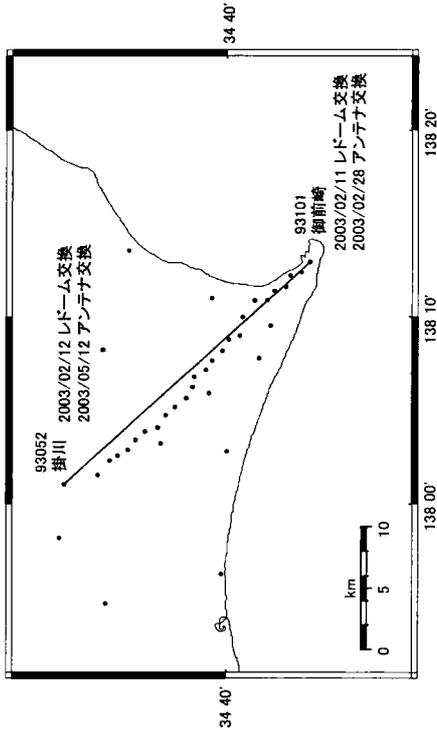
掛川一御前崎間のGPS連続観測結果(斜距離・比高)

期間：1996/04/01～2005/08/06 JST



期間：2005/02/01～2005/08/06 JST

掛川・御前崎 GPS連続観測基線図

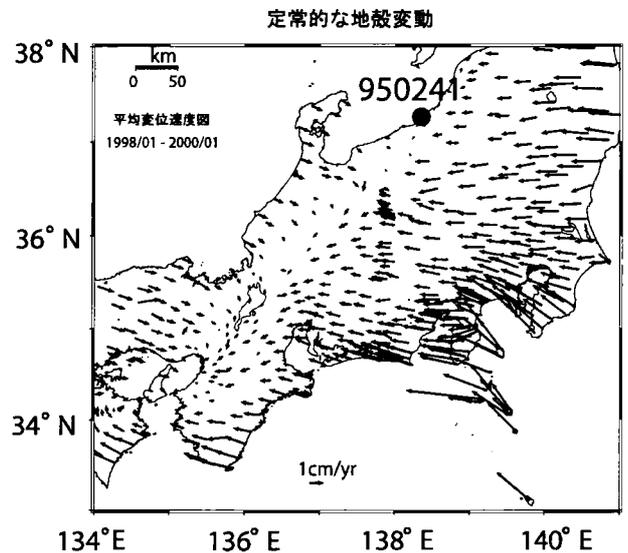
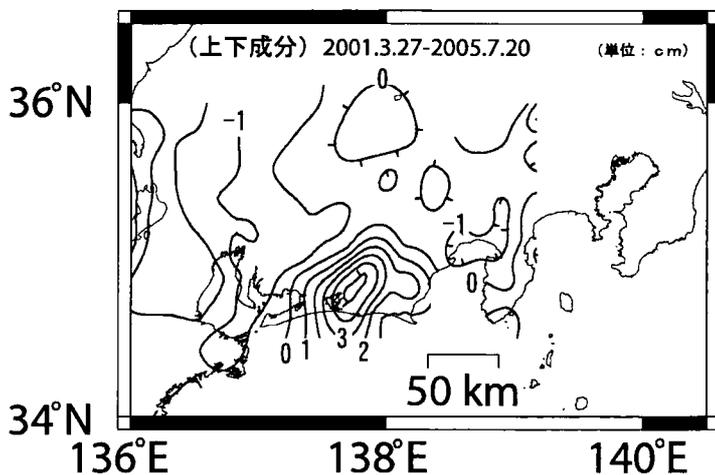
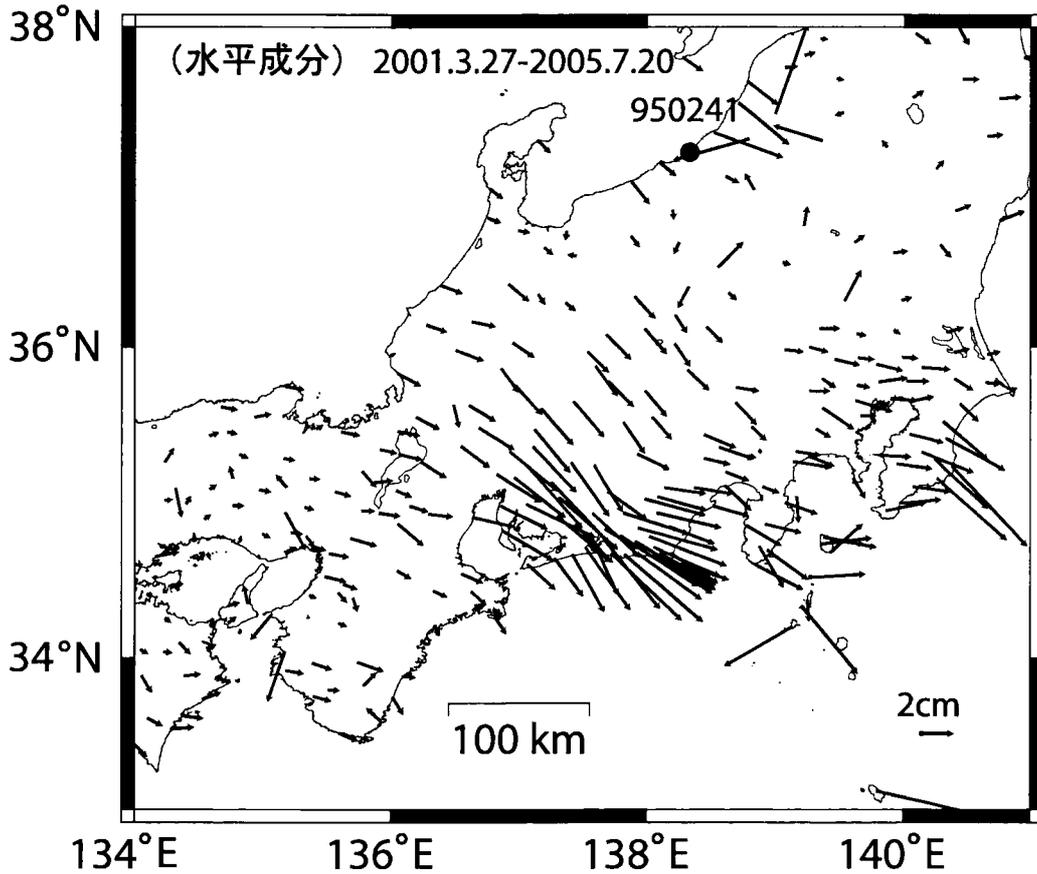


● ---[F2:最終解] ○---[R2:速報解] ↓アンテナ交換等

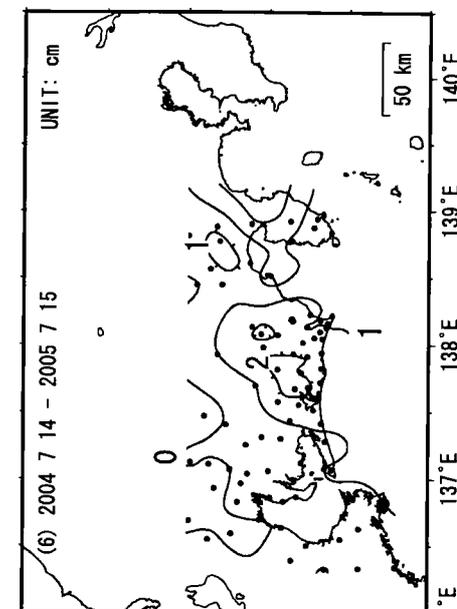
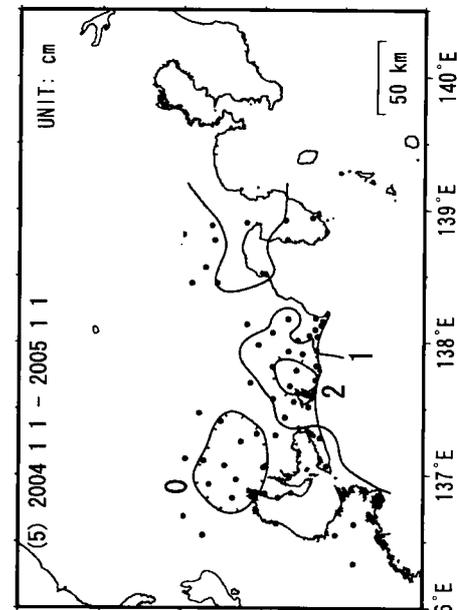
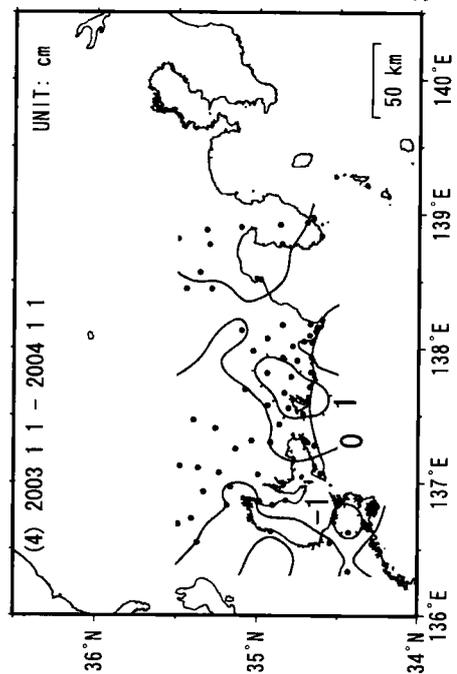
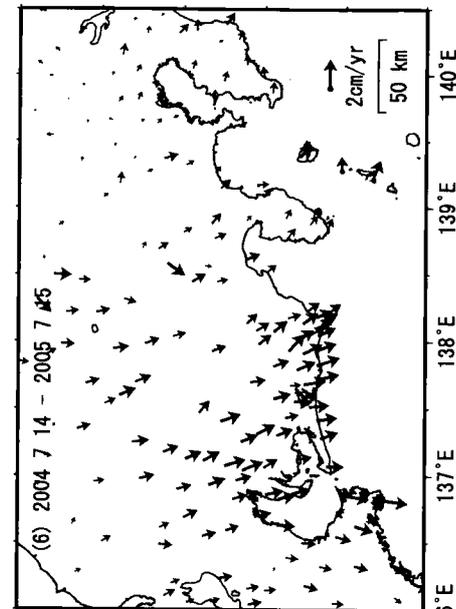
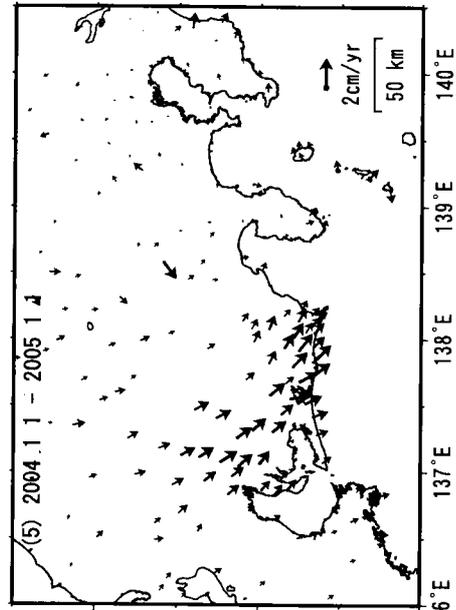
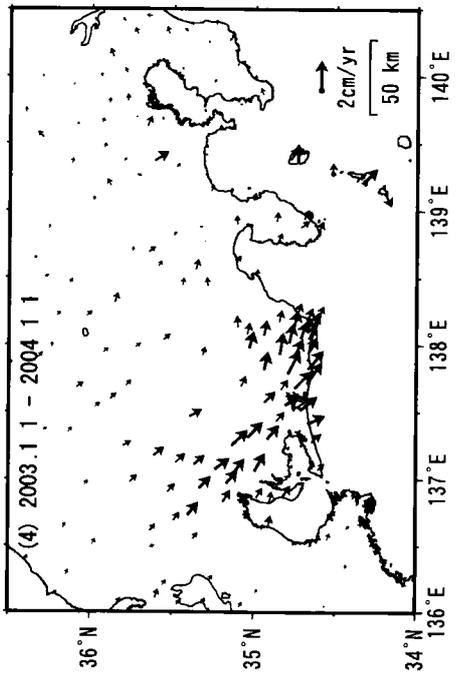
掛川・御前崎周辺の基線には
特段の変化は見られない。

平均的な地殻変動からのずれ（最終解）

- 平均的な変動として、1998年1月～2000年1月までのデータから平均速度及び年周変化を推定し、時系列データから除去している。
- 2003年以降の上下成分は年周補正を行っていない。
- 2004年9月5日に発生した紀伊半島南東沖の地震による地殻変動の影響を暫定的に取り除いている。
- 2004年10月23日に発生した新潟県中越地震による地殻変動の影響は取り除いている。



1年間で見た東海非定常地殻変動(2) 大淵固定

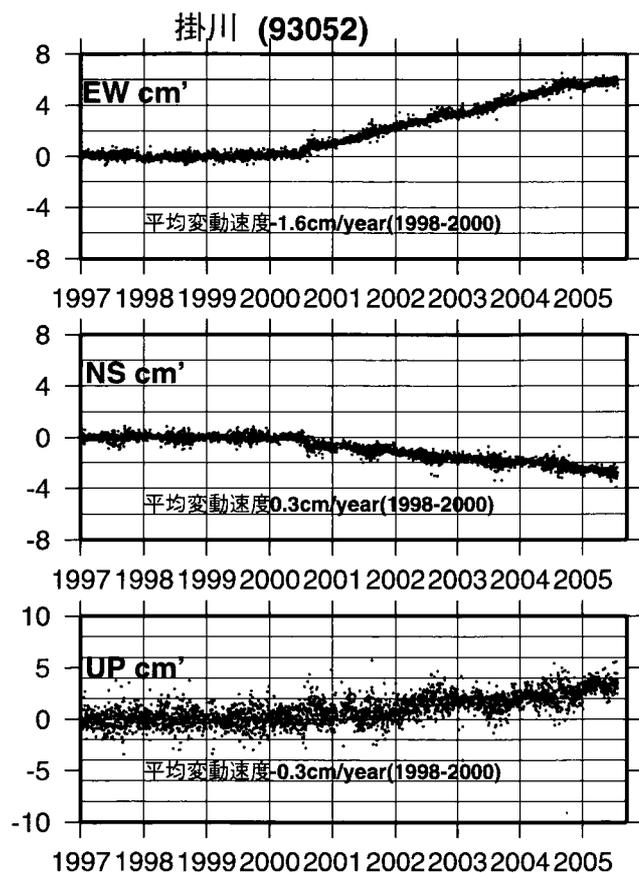
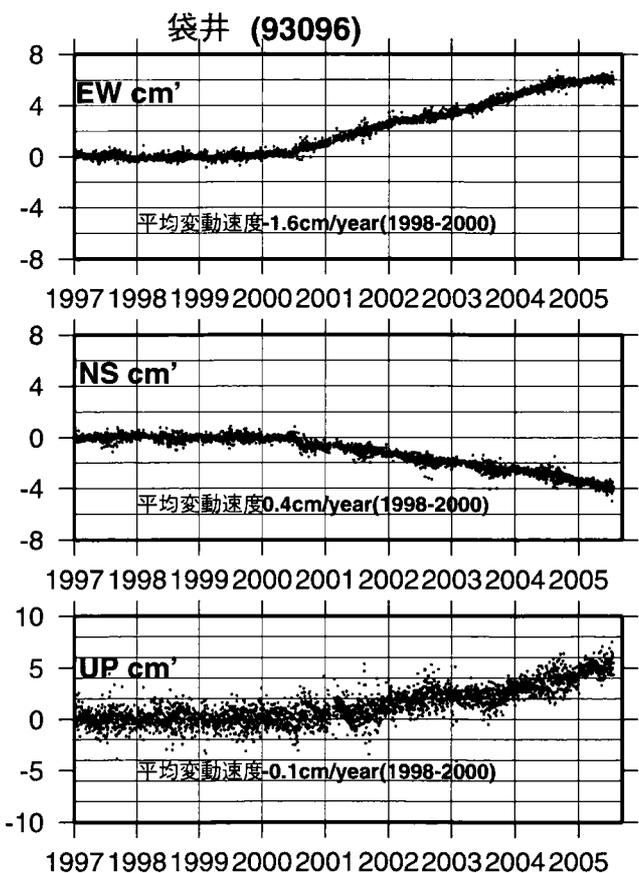
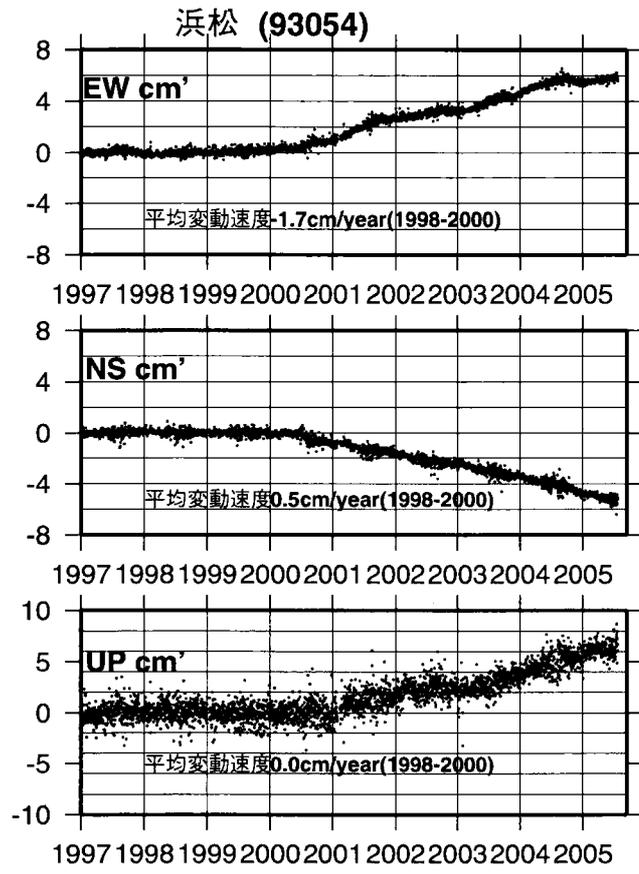
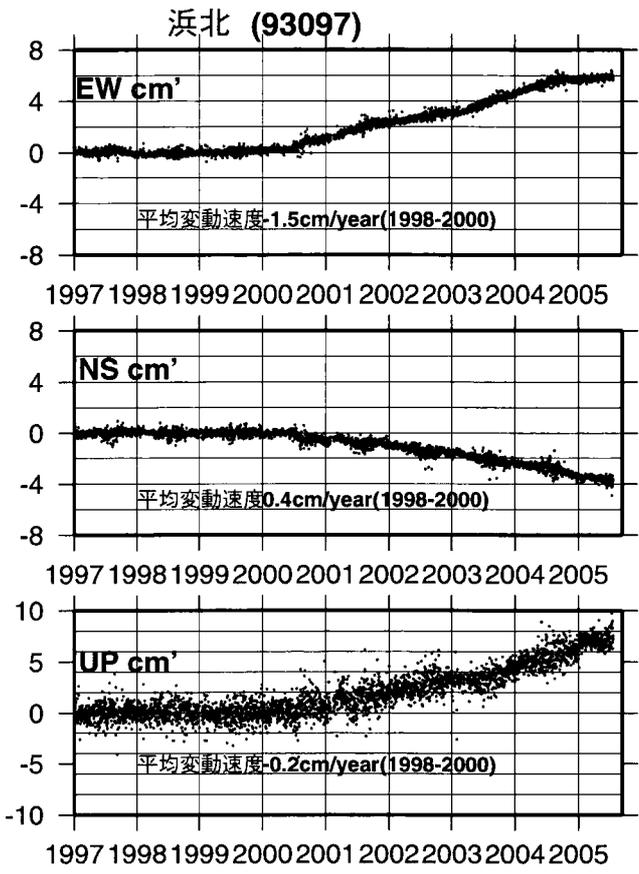


(5)(6)は、2004年9月5日に発生した
紀伊半島南東沖の地震および同年10月23日
に発生した新潟県中越地震による地殻変動
の影響を取り除いている。
2004年9月～2005年初めのデータに余効変動
の影響が含まれると考えられます。

東海地方の地殻変動 (3)

1997.01.01-2005.07.20

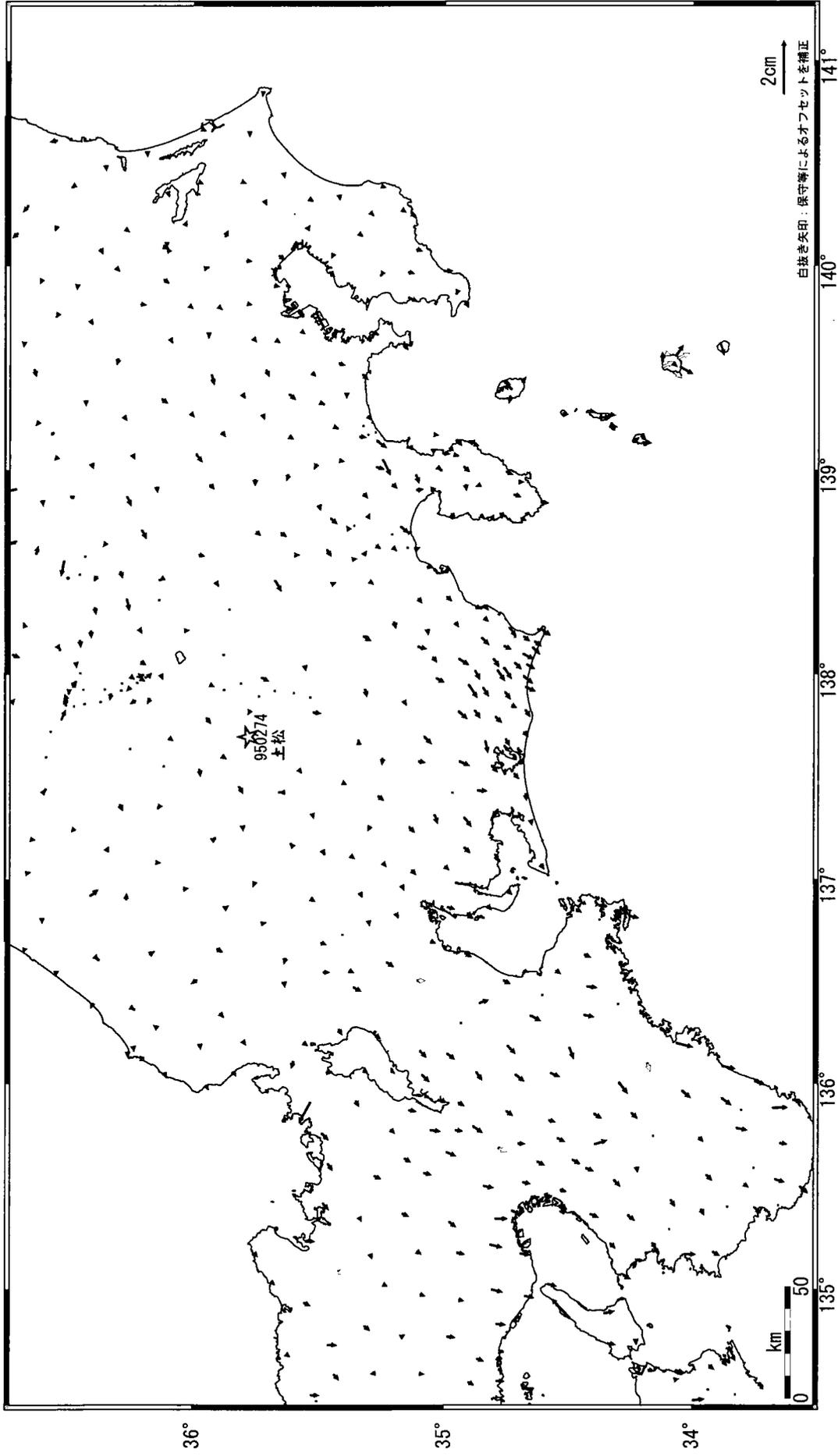
2000年1月までのデータから平均速度及び年周変化を推定し、全体の期間から取り除いている。
 2003年以降の上下成分は年周補正を行っていない。
 2004年9月5日に発生した紀伊半島南東沖の地震による地殻変動の影響を暫定的に取り除いている。
 2004年10月23日に発生した新潟県中越地震による地殻変動の影響は取り除いている。
 2004年9月から2005年初頭までは、2004年9月5日に発生した紀伊半島南東沖地震の余効変動の影響が含まれると考えられる。



2期間の地殻水平変動ベクトルの差 -1ヶ月-

基準期間: 2004/06/09-2004/06/23 [F2: 最終解]
比較期間: 2004/07/09-2004/07/23 [F2: 最終解]

基準期間: 2005/06/09-2005/06/23 [F2: 最終解]
比較期間: 2005/07/09-2005/07/23 [F2: 最終解]

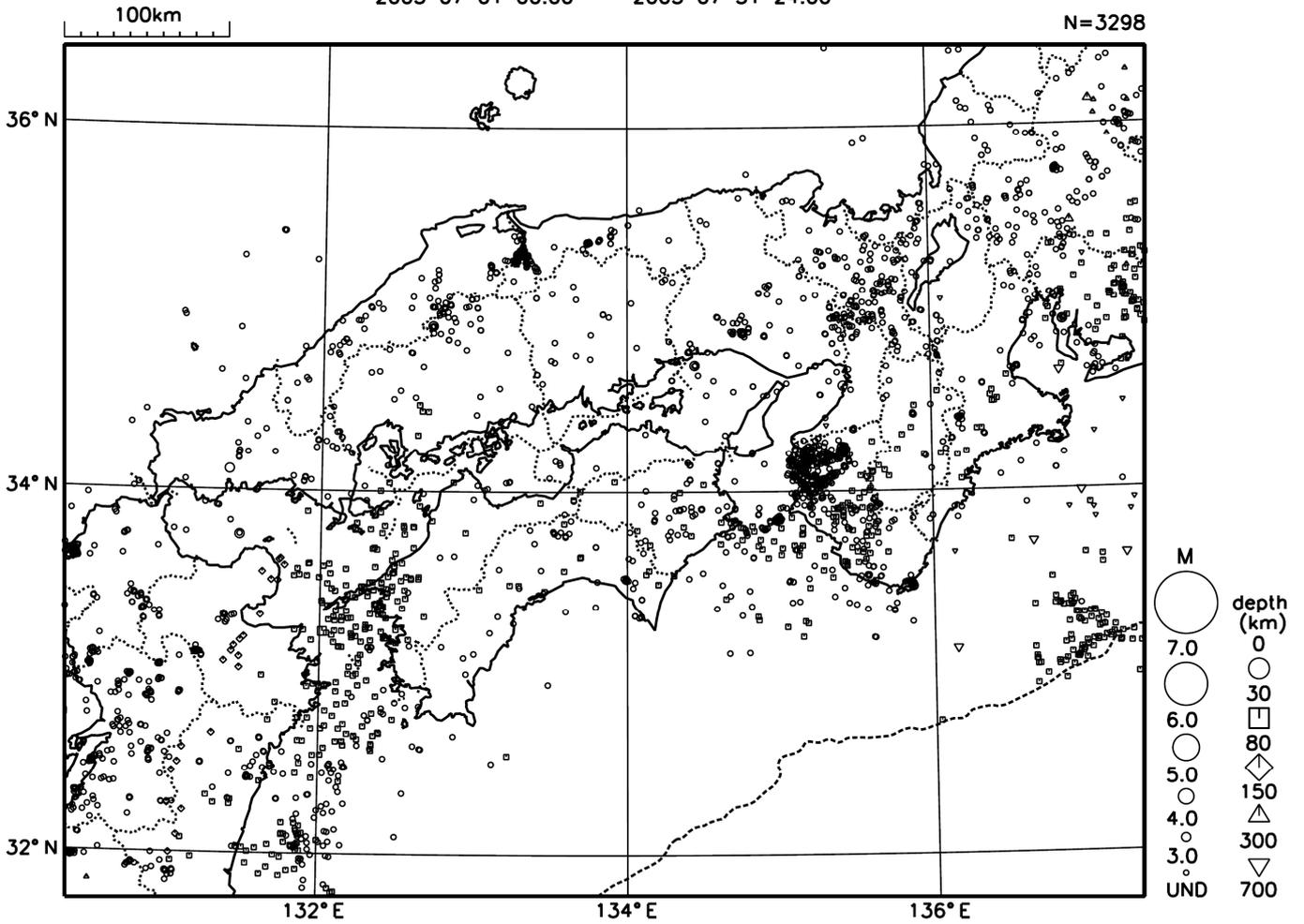


☆固定局: 上松 (950274)

近畿・中国・四国地方

2005 07 01 00:00 -- 2005 07 31 24:00

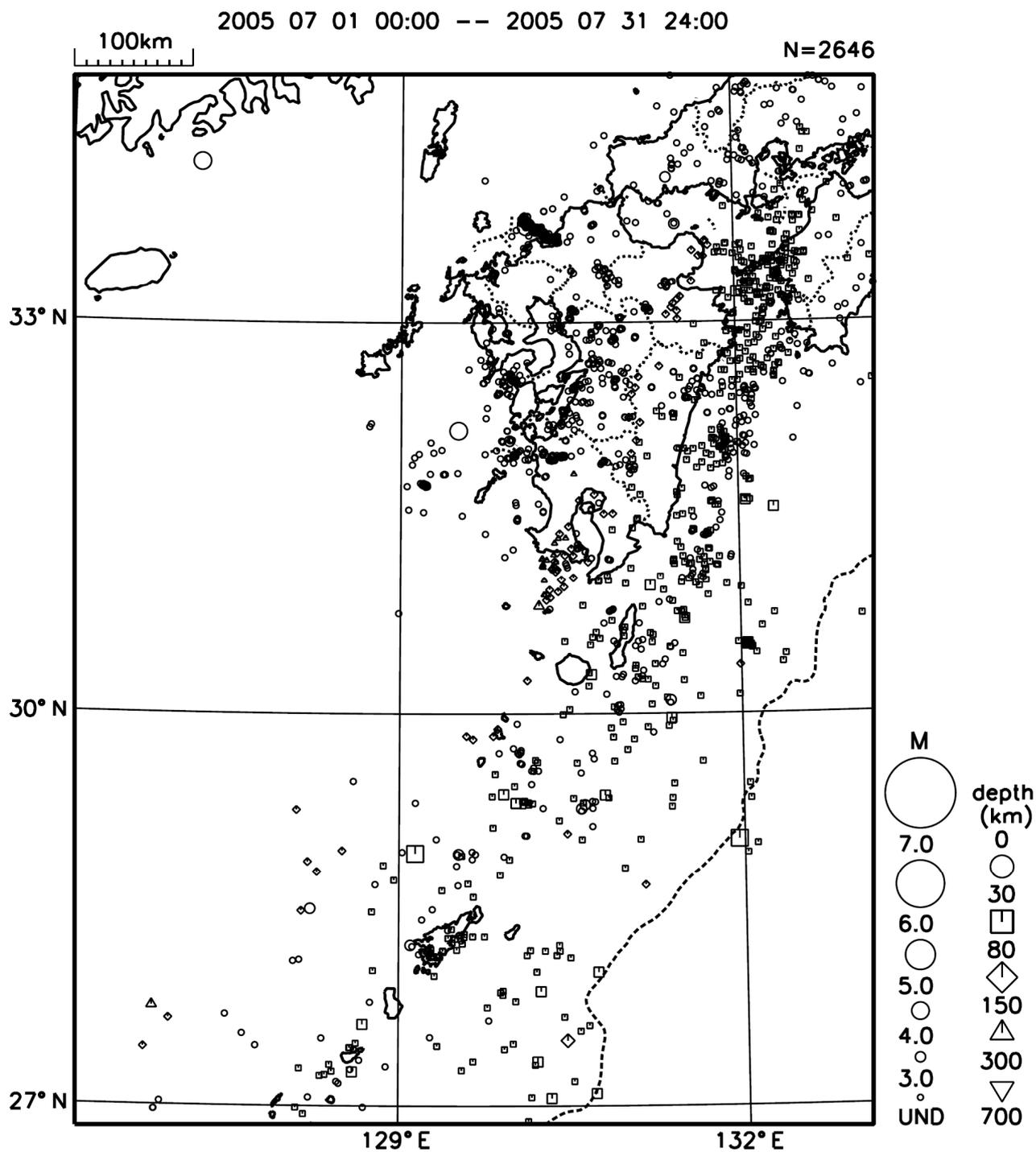
N=3298



特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

九州地方

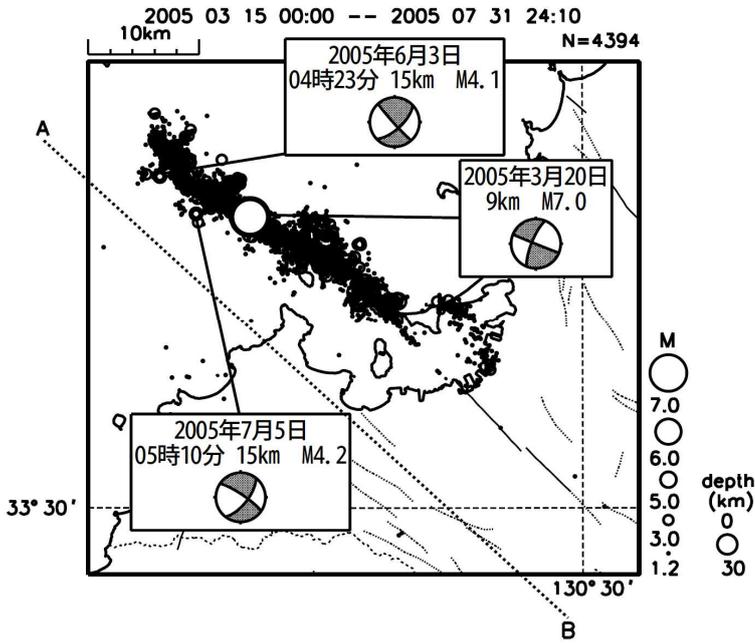


特に目立った活動はなかった。

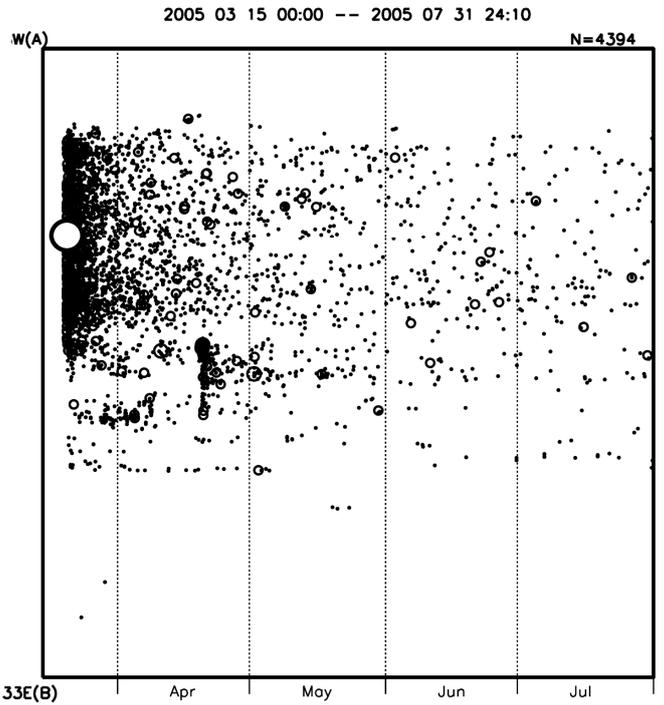
[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

福岡県西方沖の地震活動（余震活動）

震央分布図（2005年3月15日以降、 $M \geq 1.2$ ）

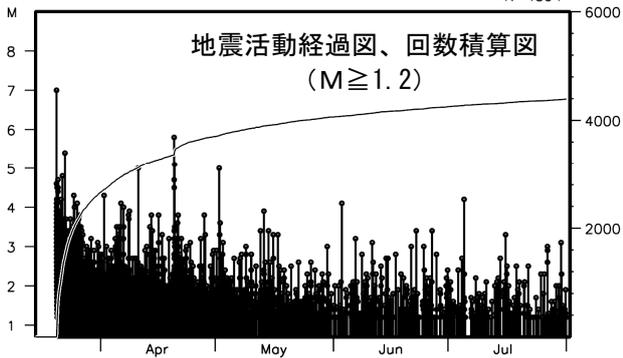


時空間分布図（A-B投影、 $M \geq 1.2$ ）



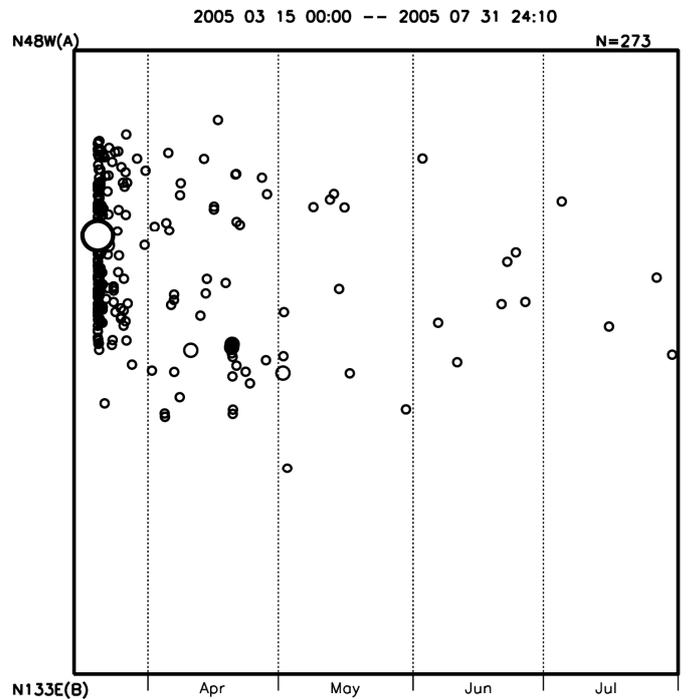
2005 03 15 00:00 -- 2005 07 31 24:10

N=4394



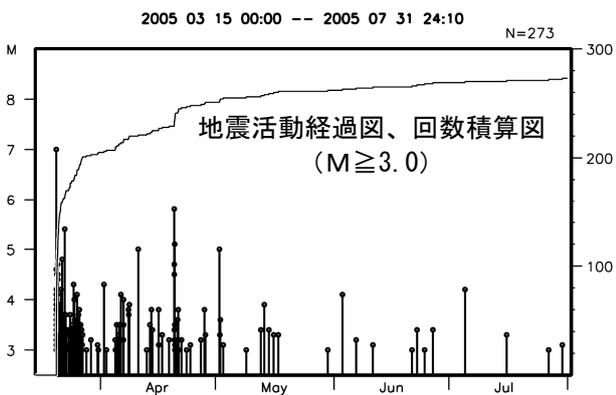
地震活動経過図、回数積算図
($M \geq 1.2$)

時空間分布図（A-B投影、 $M \geq 3.0$ ）



2005 03 15 00:00 -- 2005 07 31 24:10

N=273

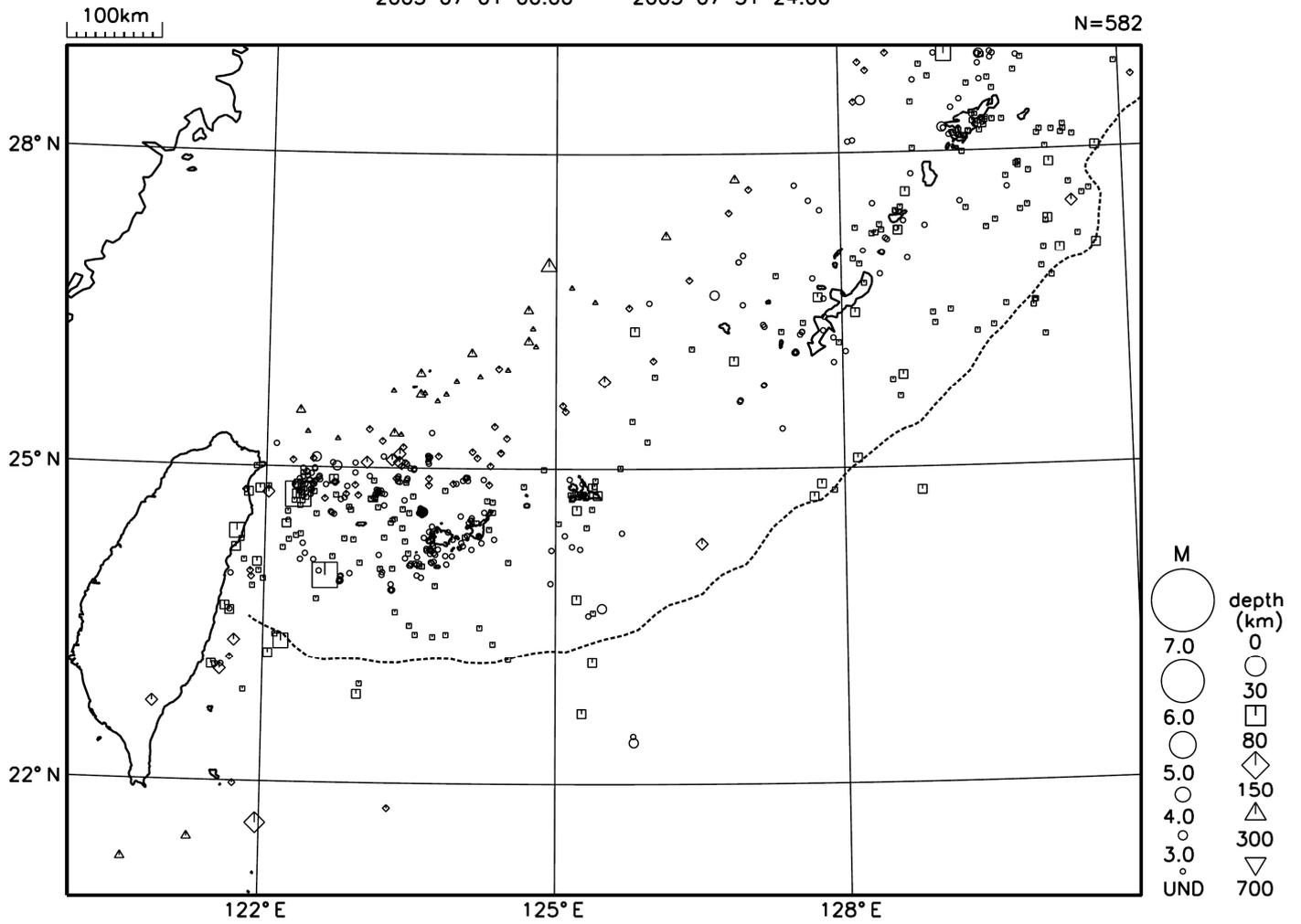


地震活動経過図、回数積算図
($M \geq 3.0$)

- 2005年3月20日の福岡県西方沖の地震（M7.0）の余震活動の状況
福岡県西方沖の地震の余震活動は順調に減衰している。
7月5日05時10分にM4.2（最大震度3）の地震が発生している。

沖縄地方

2005 07 01 00:00 -- 2005 07 31 24:00



特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]